

(様式第9)

京大病サ企第16号  
平成21年10月1日

厚生労働大臣

京都大学医学部附属病  
病院長 中村 孝

京都大学医学部附属病院の業務に関する報告について

標記について、医療法第12条の3の規定に基づき、平成20年度の業務に関して報告します。

記

- 1 高度の医療の提供の実績 → 別紙参照(様式第10)
- 2 高度の医療技術の開発及び評価の実績 → 別紙参照(様式第11)
- 3 高度の医療に関する研修の実績

|        |        |
|--------|--------|
| 研修医の人数 | 132.5人 |
|--------|--------|

(注) 前年度の研修医の実数を記入すること。

- 4 診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の体系的な管理方法  
→ 別紙参照(様式第12)
- 5 診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法及び閲覧の実績
- 6 他の病院又は診療所から紹介された患者に対する医療提供の実績  
→ 別紙参照(様式第13)

7 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

| 職種    | 常勤   | 非常勤 | 合計     | 職種      | 員数  | 職種          | 員数   |
|-------|------|-----|--------|---------|-----|-------------|------|
| 医師    | 572人 | 76人 | 632.4人 | 看護業務補助  | 56人 | 診療エックス線技師   | 0人   |
| 歯科医師  | 23人  | 0人  | 23.0人  | 理学療法士   | 12人 | 臨床検査技師      | 82人  |
| 薬剤師   | 70人  | 1人  | 70.5人  | 作業療法士   | 8人  | 衛生検査技師      | 0人   |
| 保健師   | 0人   | 0人  | 0.0人   | 視能訓練士   | 10人 | その他         | 5人   |
| 助産師   | 27人  | 0人  | 27.0人  | 義肢装具士   | 0人  | あん摩マッサージ指圧師 | 0人   |
| 看護師   | 897人 | 45人 | 930.5人 | 臨床工学技士  | 16人 | 医療社会事業従事者   | 9人   |
| 准看護師  | 4人   | 0人  | 4.0人   | 管理栄養士   | 0人  | その他の技術員     | 19人  |
| 歯科衛生士 | 1人   | 3人  | 3.3人   | 歯科技工士   | 3人  | 事務職員        | 321人 |
| 管理栄養士 | 12人  | 0人  | 12.0人  | 診療放射線技師 | 54人 | その他の職員      | 197人 |

- (注) 1 報告を行う当該年度の10月1日現在の員数を記入すること。  
 2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めないで記入すること。  
 3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下2位を切り捨て、小数点以下1位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

8 入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の入院患者及び外来患者の数

|              | 歯科等以外    | 歯科等   | 合計       |
|--------------|----------|-------|----------|
| 1日当たり平均入院患者数 | 922.3人   | 13.7人 | 936.0人   |
| 1日当たり平均外来患者数 | 2,511.2人 | 90.2人 | 2,601.3人 |
| 1日当たり平均調剤数   | 1,762 剤  |       |          |

- (注) 1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療科を受診した患者数を記入すること。  
 2 入院患者数は、年間の各科別の入院患者延数(毎日の24時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。  
 3 外来患者数は、年間の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。  
 4 調剤数は、年間の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。

(様式第10)

### 高度の医療の提供の実績

#### 1 先進医療の届出受理の有無及び取扱い患者数

| 先進医療の種類  | 届出受理                                 | 取扱い患者数 |
|--|--------------------------------------|--------|
| 高周波切除器を用いた子宮腺筋症核出術   | 有・ <input type="radio"/> 無           | 人      |
| 膝靭帯再建手術における画像支援ナビゲーション(前十字靭帯損傷又は後十字靭帯損傷に係るものに限る。)  | 有・ <input type="radio"/> 無           | 人      |
| 凍結保存同種組織を用いた外科治療(心臓弁又は血管を用いるものであって、組織の凍結保存及び外科治療を同一施設内で行うものに限る。)                                   | 有・ <input type="radio"/> 無           | 人      |
| 胎児心超音波検査(産科スクリーニング胎児超音波検査において心疾患が強く疑われる症例に係るものに限る。)  | 有・ <input type="radio"/> 無           | 人      |
| インプラント義歯(顎骨の過度の吸収により、従来の可撤性義歯では咀嚼機能の回復が困難なものに限る。)  | <input checked="" type="radio"/> 有・無 | 1人     |
| 顎顔面補綴(腫瘍手術、外傷及び炎症その他の原因により顔面領域に生じた広範囲の実質欠損に係るものに限る。)   | <input checked="" type="radio"/> 有・無 | 1人     |
| 顎関節症の補綴学的治療(顎関節症(顎関節内障、下顎頭の著しい変形及び顎関節円板の断裂を除く。))に係るものに限る。)   | 有・ <input type="radio"/> 無           | 人      |
| 経皮的埋め込み電極を用いた機能的電子刺激療法(神経の障害による運動麻痺又は骨・関節手術後の筋萎縮に係るものに限る。)   | 有・ <input type="radio"/> 無           | 人      |
| 人工括約筋を用いた尿失禁の治療  | 有・ <input type="radio"/> 無           | 人      |
| 光学印象採得による陶材歯冠修復法(歯冠部齶蝕の修復に係るものに限る。)  | 有・ <input type="radio"/> 無           | 人      |
| 経皮的レーザー椎間板減圧術(内視鏡下によるものを含み、椎間板ヘルニアに係るものに限る。)   | 有・ <input type="radio"/> 無           | 人      |
| 造血器腫瘍細胞における薬剤耐性遺伝子産物P糖蛋白の測定(白血病、悪性リンパ腫又は多発性骨髄腫その他の造血器悪性腫瘍に係るものに限る。)                                | 有・ <input type="radio"/> 無           | 人      |
| スキンドファイバー法による悪性高熱症診断法(手術が予定されている者で、悪性高熱症が強く疑われる者に係るものに限る。)   | 有・ <input type="radio"/> 無           | 人      |
| CTガイド下気管支鏡検査(肺腫瘍に係るものに限る。)   | 有・ <input type="radio"/> 無           | 人      |
| 先天性血液凝固異常症の遺伝子診断(アンチトロンビン欠乏症、第Ⅶ因子欠乏症、先天性アンチトロンビンⅢ欠乏症、先天性ヘパリンコファクターⅡ欠乏症又は先天性プラスミノゲン欠乏症に係るものに限る。)    | 有・ <input type="radio"/> 無           | 人      |
| 筋強直性又は筋緊張性ジストロフィーのDNA診断  | 有・ <input type="radio"/> 無           | 人      |
| SDI法による抗悪性腫瘍感受性試験(消化器がん、頭頸部がん、乳がん、肺がん、がん性胸・腹膜炎、子宮頸がん、子宮体がん又は卵巣がんに係るものに限る。)                         | 有・ <input type="radio"/> 無           | 人      |
| 三次元形状解析による顔面の形態的診断(頭蓋、顔面又は頸部の変形性疾患に係るものに限る。)   | 有・ <input type="radio"/> 無           | 人      |
| HDRA法又はCD—DST法による抗悪性腫瘍感受性試験(消化器がん(根治度Cの胃がんを除く。)、頭頸部がん、乳がん、肺がん、がん性胸・腹膜炎、子宮頸がん、子宮体がん又は卵巣がんに係るものに限る。) | 有・ <input type="radio"/> 無           | 人      |
| 子宮頸部前がん病変のHPV—DNA診断(子宮頸部軽度異形成に係るものに限る。)  | 有・ <input type="radio"/> 無           | 人      |
| 腹腔鏡下肝部分切除術(肝外側区域切除術を含み、肝腫瘍に係るものに限る。)   | 有・ <input type="radio"/> 無           | 人      |
| 悪性腫瘍に対する陽子線治療(固形がんに係るものに限る。)   | 有・ <input type="radio"/> 無           | 人      |
| エキシマレーザーによる治療的角膜切除術(角膜ジストロフィー又は帯状角膜変性に係るものに限る。)  | 有・ <input type="radio"/> 無           | 人      |
| 成長障害のDNA診断(特発性低身長症に係るものに限る。)   | 有・ <input type="radio"/> 無           | 人      |
| 門脈圧亢進症に対する経頸静脈肝内門脈大循環短絡術(内視鏡的治療若しくは薬物治療抵抗性の食道静脈瘤又は胃静脈瘤、門脈圧亢進症性胃腸症、難治性腹水又は難治性肝性胸水に係るものに限る。)         | 有・ <input type="radio"/> 無           | 人      |

| 先進医療の種類   | 届出受理                                  | 取扱い患者数 |
|---|---------------------------------------|--------|
| 乳房温存療法における鏡視下腋窩郭清術(主に乳房温存手術が可能なステージⅠ又はⅡの乳がんに係るものに限る。)   | 有・ <input checked="" type="radio"/> 無 | 人      |
| 声帯内自家側頭筋膜移植術(一側性反回神経麻痺又は声帯溝症に係るものに限る。)  | 有・ <input checked="" type="radio"/> 無 | 人      |
| 骨髄細胞移植による血管新生療法(閉塞性動脈硬化症又はパージャヤー病(従来の治療法に抵抗性のもので、フォンタン分類Ⅲ度又は同分類Ⅳ度のものに限る。))に係るものに限る。)  | 有・ <input checked="" type="radio"/> 無 | 人      |
| ミトコンドリア病のDNA診断(高乳酸血症その他のミトコンドリア機能低下が疑われる疾患に係るものに限る。)  | 有・ <input checked="" type="radio"/> 無 | 人      |
| 鏡視下肩峰下腔徐圧術(透析アミロイド肩関節症又は腱板断裂、五十肩若しくは関節リウマチその他の原因による肩インピンジメント症候群に係るものに限る。)   | 有・ <input checked="" type="radio"/> 無 | 人      |
| 神経変性疾患のDNA診断(ハンチントン舞踏病、脊髄小脳変性症、球脊髄性筋萎縮症、家族性筋萎縮性側索硬化症、家族性低カリウム血症性周期性四肢麻痺又はマックリード症候群その他の神経変性疾患に係るものに限る。)  | 有・ <input checked="" type="radio"/> 無 | 人      |
| 難治性眼疾患に対する羊膜移植術(再発翼状片、角膜上皮欠損(角膜移植によるものを含む。)、角膜穿孔、角膜化学腐食、角膜癒着、瞼球癒着(スティーブンス・ジョンソン症候群、眼類天疱瘡、熱・化学外傷癒着その他の重症の癒着性角結膜疾患を含む。)、結膜上皮内過形成又は結膜腫瘍その他の眼表面疾患に係るものに限る。) | 有・ <input checked="" type="radio"/> 無 | 人      |
| 重粒子線治療(固形がんに係るものに限る。)   | 有・ <input checked="" type="radio"/> 無 | 人      |
| 脊椎腫瘍に対する腫瘍脊椎骨全摘術(原発性脊椎腫瘍又は転移性脊椎腫瘍に係るものに限る。)   | 有・ <input checked="" type="radio"/> 無 | 人      |
| 31P—磁気共鳴スペクトロスコピーとケミカルシフト画像による糖尿病性足病変の非侵襲的診断(糖尿病性足病変危険群と考えられる糖尿病患者に係るものに限る。)  | 有・ <input checked="" type="radio"/> 無 | 人      |
| 神経芽腫のRNA診断  | 有・ <input checked="" type="radio"/> 無 | 人      |
| 硬膜外腔内視鏡による難治性腰下肢痛の治療(腰椎椎間板ヘルニア、腰部脊椎管狭窄症又は腰椎手術の実施後の腰下肢痛(保存治療に抵抗性のものに限る。))に係るものに限る。)  | 有・ <input checked="" type="radio"/> 無 | 人      |
| 重症BCG副反応症例における遺伝子診断(BCG副反応症例又は非定形抗酸菌感染で重症、反復若しくは難治である場合に係るものに限る。)   | 有・ <input checked="" type="radio"/> 無 | 人      |
| 骨軟部腫瘍切除後骨欠損に対する自家液体塞素処理骨移植  | 有・ <input checked="" type="radio"/> 無 | 人      |
| 脾腫瘍に対する腹腔鏡補助下脾切除術(インスリーマ、脾動脈瘤、粘液性嚢胞腫瘍、脾管内腫瘍その他の脾良性腫瘍に係る脾体尾部切除又は核出術に限る。)   | 有・ <input checked="" type="radio"/> 無 | 人      |
| 低悪性度非ホジキンリンパ腫の遺伝子診断(マントル細胞リンパ腫の補助診断として用いるものに限る。)  | 有・ <input checked="" type="radio"/> 無 | 人      |
| 悪性脳腫瘍に対する抗悪性腫瘍剤治療における薬剤耐性遺伝子解析  | 有・ <input checked="" type="radio"/> 無 | 人      |
| Q熱診断における血清抗体価測定及び病原体遺伝子診断(急性期又は慢性期のQ熱に係るものに限る。)   | 有・ <input checked="" type="radio"/> 無 | 人      |
| エキシマレーザー冠動脈形成術(経皮的冠動脈形成術(エキシマレーザー冠動脈形成術を除く。))による治療が困難なもの、慢性完全閉塞のもの又はこれに準ずるものに係るものに限る。)  | 有・ <input checked="" type="radio"/> 無 | 人      |
| 活性化Tリンパ球移入療法(原発性若しくは続発性の免疫不全症の難治性日和見感染症又は慢性活動性EBウイルス感染症に係るものに限る。)   | 有・ <input checked="" type="radio"/> 無 | 人      |
| 家族性アルツハイマー病の遺伝子診断   | 有・ <input checked="" type="radio"/> 無 | 人      |
| 膀胱尿管逆流症に対する腹腔鏡下逆流防止術(膀胱尿管逆流症(国際分類グレードⅤの高度逆流症を除く。))に係るものに限る。)  | 有・ <input checked="" type="radio"/> 無 | 人      |
| 三次元再構築画像による股関節疾患の診断及び治療   | 有・ <input checked="" type="radio"/> 無 | 人      |
| 泌尿生殖器腫瘍の後腹膜リンパ節転移に対する腹腔鏡下リンパ節郭清術(泌尿生殖器腫瘍のリンパ節転移例又は画像上リンパ節転移が疑われるものに係るものに限る。)  | 有・ <input checked="" type="radio"/> 無 | 人      |

| 先進医療の種類  | 届出受理                                 | 取扱い患者数 |
|--|--------------------------------------|--------|
| HLA抗原不一致血縁ドナーからのCD34陽性造血幹細胞移植 (HLA適合ドナーがないために造血幹細胞移植が受けられない小児のがん、難治性造血障害又は免疫不全症に係るものに限る。)  | 有・ <input type="radio"/> 無           | 人      |
| 頸椎椎間板ヘルニアに対するヤグレーザーによるCT透視下の経皮的椎間板減圧術 (頸椎椎間板ヘルニア (画像診断上椎間板繊維輪の破綻していないヘルニアであって、神経根症が明らかであり保存治療に抵抗性のもの (後縦靭帯骨化症、脊椎管狭窄状態又は脊椎症状のあるものを除く。)) に係るものに限る。)                        | 有・ <input type="radio"/> 無           | 人      |
| ケラチン病の遺伝子診断 (水疱型魚鱗癬様紅皮症又は単純型表皮水疱症その他の遺伝子異常に係るものに限る。)   | 有・ <input type="radio"/> 無           | 人      |
| 隆起性皮膚線維肉腫の遺伝子診断  | 有・ <input type="radio"/> 無           | 人      |
| 末梢血単核球移植による血管再生治療 (慢性閉塞性動脈硬化症又はバージャー病 (従来の内科的治療又は外科的治療が無効であるもの) に限り、三年以内の悪性新生物の既往又は未治療の糖尿病性網膜症のあるものを除く。)) に係るものに限る。)   | 有・ <input type="radio"/> 無           | 人      |
| 末梢血単核球移植による血管再生治療 (慢性閉塞性動脈硬化症又はバージャー病 (従来の内科的治療又は外科的治療が無効であるもの) に限り、三年以内の悪性新生物の既往又は未治療の糖尿病性網膜症のあるものを除く。)) に係るものに限る。)   | 有・ <input type="radio"/> 無           | 人      |
| 一絨毛膜性双胎妊娠において発症した双胎間輸血症候群に対する内視鏡的胎盤吻合血管レーザー焼灼術 (双胎間輸血症候群に罹患した一絨毛膜性双胎妊娠の症例 (妊娠十六週から二十六週に限る。)) に係るものに限る。)  | 有・ <input type="radio"/> 無           | 人      |
| カラー蛍光観察システム下気管支鏡検査及び光線力学療法 (肺がん又は気管支前がん病変に係るものに限る。)  | 有・ <input type="radio"/> 無           | 人      |
| 先天性銅代謝異常症の遺伝子診断 (ウィルソン病、メンケス病又はオクシピタルホーン症候群に係るものに限る。)  | 有・ <input type="radio"/> 無           | 人      |
| 超音波骨折治療法 (四肢の骨折 (治療のために手術中に行われるものを除く。)) のうち、観血的手術を実施したもの (開放骨折又は粉碎骨折に係るものを除く。)) に係るものに限る。)   | <input checked="" type="radio"/> 有・無 | 0人     |
| CYP2C19遺伝子多型検査に基づくテーラーメイドのヘリコバクター・ピロリ除菌療法 (ヘリコバクター・ピロリ感染を伴う胃潰瘍又は十二指腸潰瘍に係るものに限る。)   | 有・ <input type="radio"/> 無           | 人      |
| 非生体ドナーから採取された同種骨・靭帯組織の凍結保存 (骨又は靭帯の再建術であって、先天性疾患、外傷性 (欠損性又は感染性偽関節に係るもの) に限り、骨腫瘍切除後、関節固定術時若しくは人工関節置換術時 (初回又は再置換術時に限り) の広範囲骨欠損、脊椎固定術時の骨融合促進又は靭帯断裂による関節不安定性に係るもの) に係るものに限る。) | 有・ <input type="radio"/> 無           | 人      |
| X線CT画像診断に基づく手術用顕微鏡を用いた歯根端切除手術 (難治性根尖性歯周炎であって、通常の根管治療では効果が認められないもの) に係るものに限る。)  | 有・ <input type="radio"/> 無           | 人      |
| 定量的CTを用いた有限要素法による骨強度予測評価 (骨粗鬆症、骨変形若しくは骨腫瘍又は骨腫瘍掻爬術後若しくは骨髄炎掻爬術後の症状に係るもの) に係るものに限る。)  | 有・ <input type="radio"/> 無           | 人      |
| 膀胱水圧拡張術 (間質性膀胱炎に係るもの) に係るものに限る。)   | <input checked="" type="radio"/> 有・無 | 5人     |
| 色素性乾皮症に係る遺伝子診断   | 有・ <input type="radio"/> 無           | 人      |
| 先天性高インスリン血症に係る遺伝子診断  | 有・ <input type="radio"/> 無           | 人      |
| 歯周外科治療におけるバイオ・リジェネレーション法 (歯周炎による重度垂直性骨欠損に係るもの) に係るものに限る。)  | 有・ <input type="radio"/> 無           | 人      |
| セメント固定人工股関節置換術におけるコンピュータ支援フルオロナビゲーションを用いたセメント除去術 (人工股関節のたるみに係るもの) に係るものに限る。)   | <input checked="" type="radio"/> 有・無 | 6人     |
| 腹腔鏡下直腸固定術 (直腸脱に係るもの) に係るものに限る。)  | 有・ <input type="radio"/> 無           | 人      |
| 骨移動術による関節温存型再建 (骨軟部腫瘍切除後の骨欠損に係るもの) に係るものに限る。)  | 有・ <input type="radio"/> 無           | 人      |
| 肝切除手術における画像支援ナビゲーション (原発性肝がん、肝内胆管がん、転移性肝がん又は生体肝移植ドナーに係るもの) に係るものに限る。)  | 有・ <input type="radio"/> 無           | 人      |
| 樹状細胞及び腫瘍抗原ペプチドを用いたがんワクチン療法 (腫瘍抗原を発現する消化管悪性腫瘍 (食道がん、胃がん又は大腸がん)、進行再発乳がん又は原発性若しくは転移性肺がん) に係るもの) に係るものに限る。)  | 有・ <input type="radio"/> 無           | 人      |

| 先進医療の種類   | 届出受理                                 | 取扱い患者数 |
|---|--------------------------------------|--------|
| 自己腫瘍・組織を用いた活性化自己リンパ球移入療法(がん性の胸水、腹水又は進行がんに係るものに限る。)  | 有・ <input type="radio"/> 無           | 人      |
| 自己腫瘍・組織及び樹状細胞を用いた活性化自己リンパ球移入療法(がん性の胸水、腹水又は進行がんに係るものに限る。)  | 有・ <input type="radio"/> 無           | 人      |
| リアルタイムPCRを用いた迅速診断(EBウイルス感染症に係るものに限る。)   | 有・ <input type="radio"/> 無           | 人      |
| 内視鏡下小切開泌尿器腫瘍手術(尿管腫瘍、膀胱腫瘍、後腹膜腫瘍、後腹膜リンパ節腫瘍(精巣がんから転移したものに限る。))又は骨盤リンパ節腫瘍(泌尿器がんから転移したものに限る。))に係るものに限る。)   | 有・ <input type="radio"/> 無           | 人      |
| 多焦点眼内レンズを用いた水晶体再建術(白内障に係るものに限る。)  | 有・ <input type="radio"/> 無           | 人      |
| 先天性難聴の遺伝子診断(遺伝性による先天性難聴が疑われるものに限る。)   | 有・ <input type="radio"/> 無           | 人      |
| フェニルケトン尿症の遺伝子診断(フェニルケトン尿症、高フェニルアラニン血症又はビオプテリン反応性フェニルアラニン水酸化酵素欠損症に係るものに限る。)  | 有・ <input type="radio"/> 無           | 人      |
| 培養細胞による先天性代謝異常診断(先天性代謝異常(ライソゾーム病に限る。))に罹患する可能性の高い胎児もしくは新生児又は先天性代謝異常(ライソゾーム病に限る。))が疑われる小児に係るものであって、酵素補充療法による治療が出来ないものに限る。)   | 有・ <input type="radio"/> 無           | 人      |
| 腹腔鏡下子宮体がん根治手術(手術進行期分類 I b期までの子宮体がんに係るものに限る。)  | 有・ <input type="radio"/> 無           | 人      |
| 培養細胞による脂肪酸代謝異常症又は有機酸代謝異常症の診断  | 有・ <input type="radio"/> 無           | 人      |
| RET遺伝子診断(甲状腺髄様癌に係るものに限る。)   | 有・ <input type="radio"/> 無           | 人      |
| 角膜ジストロフィの遺伝子解析(角膜ジストロフィと診断された症例に係るものに限る。)   | 有・ <input type="radio"/> 無           | 人      |
| 強度変調放射線治療(限局性の固形悪性腫瘍(頭頸部腫瘍、前立腺腫瘍又は中枢神経腫瘍であって、原発性のものを除く。))に係るものに限る。)   | <input checked="" type="radio"/> 有・無 | 2人     |
| マイクロ波子宮内膜アブレーション(機能性及び器質性過多月経(ただし、妊孕性の温存が必要な場合又は子宮内膜がん、異型内膜増殖症その他の悪性疾患又はその疑いがある場合を除く。))であって、子宮壁厚十ミリメートル以上の症例に係るものに限る。)  | 有・ <input type="radio"/> 無           | 人      |
| 抗EGFR抗体医薬投与前におけるKRAS遺伝子変異検査(EGFR陽性の治癒切除不能な進行又は再発の結腸又は直腸がんに係るものに限る。)   | 有・ <input type="radio"/> 無           | 人      |
| 光トポグラフィー検査を用いたうつ症状の鑑別診断補助(ICD-10(統計法第二十八条及び附則第三条の規定に基づき、疾病、傷害及び死因に関する分類の名称及び分類表を定める件(平成二十一年総務省告示第百七十六号)の「(1) 疾病、傷害及び死因の統計分類基本分類表」に規定する分類をいう。))においてF2(統合失調症、統合失調症型障害及び妄想性障害)に分類される疾病及びF3(気分(感情)障害)に分類される疾病のいずれかの疾病の患者であることが強く疑われるうつ症状の者(器質的疾患に起因するうつ症状の者を除く。))に係るものに限る。) | 有・ <input type="radio"/> 無           | 人      |
| 内視鏡下筋膜下不全穿通枝切離術(下肢慢性静脈不全症(下腿の広範囲の皮膚に色素沈着、硬化若しくは萎縮が起こり、又は潰瘍を有するとともに、超音波検査により穿通枝の血液が逆流していることが確認され、かつ、従来の外科的治療法の実施により根治性が期待できないものに限る。))に係るものに限る。)  | 有・ <input type="radio"/> 無           | 人      |
| 歯科用CAD・CAMシステムを用いたハイブリッドレジンによる歯冠補綴(小白歯の重度の齲蝕に対して全部被覆冠による歯冠補綴が必要な場合に限る。)   | 有・ <input type="radio"/> 無           | 人      |
| 大腸腫瘍に対する内視鏡的粘膜下層剥離術(早期大腸がん(EMR(内視鏡的粘膜切除術をいう。以下同じ。))では一括切除が困難な二センチメートル以上の病変であって、拡大内視鏡診断又は超音波内視鏡診断による十分な術前評価の結果、根治性が期待できるものに限る。))又は腺腫(EMRを実施した際の病変の挙上不良なもの又はEMRを実施した後に遺残又は再発したものであってEMRでは切除が困難な一センチメートル以上の病変のものに限る。))に係るものに限る。)   | 有・ <input type="radio"/> 無           | 人      |
| 実物大臓器立体モデルによる手術支援(骨盤、四肢骨又は関節に著しい変形又は欠損を伴う疾患又は外傷に係るものに限る。)   | 有・ <input type="radio"/> 無           | 人      |
| 無拘束型多点感圧シートセンサを用いた検査(閉塞性睡眠時無呼吸症候群が強く疑われる症状(習慣性がある激しいいびき、日中の傾眠等をいう。))及び所見(肥満、薬物療法に対して抵抗性を有する高血圧等をいう。))が認められる者又は中枢性睡眠時無呼吸症候群が強く疑われる慢性心不全の者に係るものに限る。)  | 有・ <input type="radio"/> 無           | 人      |

| 先進医療の種類   | 届出受理                                  | 取扱い患者数 |
|---|---------------------------------------|--------|
| 内視鏡下頸部良性腫瘍摘出術(頸部良性腫瘍に係るものに限る。)  | 有・ <input checked="" type="radio"/> 無 | 人      |
| 悪性黒色腫におけるセンチネルリンパ節の遺伝子診断  | 有・ <input checked="" type="radio"/> 無 | 人      |
| 腫瘍性骨病変及び骨粗鬆症に伴う骨脆弱性病変に対する経皮的骨形成術(転移性脊椎骨腫瘍、骨粗鬆症による脊椎骨折又は難治性疼痛を伴う椎体圧迫骨折若しくは臼蓋骨折に係るものに限る。)                                       | 有・ <input checked="" type="radio"/> 無 | 人      |
| 悪性黒色腫又は乳がんにおけるセンチネルリンパ節の同定と転移の検索  | 有・ <input checked="" type="radio"/> 無 | 人      |
| カフェイン併用化学療法(骨肉腫、悪性線維性組織球腫、滑膜肉腫又は明細胞肉腫その他の骨軟部悪性腫瘍に係るものに限る。)  | 有・ <input checked="" type="radio"/> 無 | 人      |
| 胎児尿路・羊水腔シャント術(プルーン・ベリー症候群その他の胎児閉塞性尿路疾患に係るものに限る。)  | 有・ <input checked="" type="radio"/> 無 | 人      |
| 筋過緊張に対するmuscle afferent block(MAB)治療(ジストニア、痙性麻痺その他の局所の筋過緊張を呈する病態に係るものに限る。)  | 有・ <input checked="" type="radio"/> 無 | 人      |
| 胸部悪性腫瘍に対するラジオ波焼灼療法(胸部悪性腫瘍(従来の外科的治療法の実施が困難なもの又は外科的治療法の実施により根治性が期待できないものに限る。))に係るものに限る。)  | 有・ <input checked="" type="radio"/> 無 | 人      |
| 腎悪性腫瘍に対するラジオ波焼灼療法(腎悪性腫瘍(従来の外科的治療法の実施が困難なもの又は外科的治療法の実施により根治性が期待できないものに限る。))に係るものに限る。)  | 有・ <input checked="" type="radio"/> 無 | 人      |
| 内視鏡下甲状腺がん手術(手術の実施後、予後の良い甲状腺乳頭がんに係るものに限る。)   | 有・ <input checked="" type="radio"/> 無 | 人      |
| 骨腫瘍のCT透視ガイド下経皮的ラジオ波焼灼療法(転移性骨腫瘍で既存の治療法により制御不良なもの又は類骨腫(診断の確実なものに限る。))に係るものに限る。)   | 有・ <input checked="" type="radio"/> 無 | 人      |
| 下肢静脈瘤に対する血管内レーザー治療法(一次性下肢静脈瘤に係るものに限る。)  | 有・ <input checked="" type="radio"/> 無 | 人      |
| 胎児胸腔・羊水腔シャントチューブ留置術(特発性又は既知の胎児先天性感染による胸水を主たる徴候とする非免疫性胎児水腫症(NIHF)例であって、胸腔穿刺後一週間以降に胸水の再貯留が認められるもの(妊娠二十週から三十四週未満に限る。))に係るものに限る。) | 有・ <input checked="" type="radio"/> 無 | 人      |
| 早期胃がんに対する腹腔鏡下センチネルリンパ節検索  | 有・ <input checked="" type="radio"/> 無 | 人      |
| 副甲状腺内活性型ビタミンD(アナログ)直接注入療法(二次性副甲状腺機能亢進症に係るものに限る。)  | 有・ <input checked="" type="radio"/> 無 | 人      |
| 腹腔鏡補助下肝切除術(部分切除及び外側区域切除を除く。)  | 有・ <input checked="" type="radio"/> 無 | 人      |
| 根治的前立腺全摘除術における内視鏡下手術用ロボット支援(前立腺がんに係るものに限る。)   | 有・ <input checked="" type="radio"/> 無 | 人      |
| 内視鏡下手術用ロボットを用いた冠動脈バイパス手術(虚血性心疾患に係るものであって、一箇所を吻合するものに限る。)  | 有・ <input checked="" type="radio"/> 無 | 人      |

(注)1 「取扱い患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

2 先進医療で上の表に掲げられていないものを行っている場合は、空欄の部分に記入すること。

## 2 特定疾患治療研究事業対象疾患についての診療

| 疾患名               | 取扱い患者数 | 疾患名                       | 取扱い患者数 |
|-------------------|--------|---------------------------|--------|
| ・ベーチェット病          | 81人    | ・モヤモヤ病(ウィリス動脈輪閉塞症)        | 53人    |
| ・多発性硬化症           | 43人    | ・ウエゲナー肉芽腫症                | 7人     |
| ・重症筋無力症           | 71人    | ・特発性拡張型(うっ血型)心筋症          | 69人    |
| ・全身性エリテマトーデス      | 357人   | ・多系統萎縮症                   | 21人    |
| ・スモン              | 1人     | ・表皮水疱症(接合部型及び栄養障害型)       | 2人     |
| ・再生不良性貧血          | 28人    | ・膿疱性乾癬                    | 5人     |
| ・サルコイドーシス         | 87人    | ・広範脊柱管狭窄症                 | 5人     |
| ・筋萎縮性側索硬化症        | 30人    | ・原発性胆汁性肝硬変                | 67人    |
| ・強皮症, 皮膚筋炎及び多発性筋炎 | 229人   | ・重症急性膵炎                   | 5人     |
| ・特発性血小板減少性紫斑病     | 30人    | ・特発性大腿骨頭壊死症               | 36人    |
| ・結節性動脈周囲炎         | 46人    | ・混合性結合組織病                 | 36人    |
| ・潰瘍性大腸炎           | 133人   | ・原発性免疫不全症候群               | 9人     |
| ・大動脈炎症候群          | 63人    | ・特発性間質性肺炎                 | 49人    |
| ・ビュルガー病           | 7人     | ・網膜色素変性症                  | 108人   |
| ・天疱瘡              | 14人    | ・プリオン病                    | 1人     |
| ・脊髄小脳変性症          | 24人    | ・原発性肺高血圧症                 | 10人    |
| ・クローン病            | 89人    | ・神経線維腫症                   | 17人    |
| ・難治性の肝炎のうち劇症肝炎    | 19人    | ・亜急性硬化性全脳炎                | 0人     |
| ・悪性関節リウマチ         | 41人    | ・バッド・キアリ(Budd-Chiari)症候群  | 8人     |
| ・パーキンソン病関連疾患      | 102人   | ・特発性慢性肺血栓栓症(肺高血圧型)        | 4人     |
| ・アミロイドーシス         | 4人     | ・ライソゾーム病(ファブリー[Fabry]病)含む | 0人     |
| ・後縦靭帯骨化症          | 33人    | ・副腎白質ジストロフィー              | 1人     |
| ・ハンチントン病          | 3人     |                           |        |

(注) 「取扱い患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

## 3 病院・臨床検査部門の概要

|                                     |  |     |             |
|-------------------------------------|--|-----|-------------|
| 臨床検査及び病理診断を実施する部門の状況                | ① 臨床検査部門と病理診断部門は別々である。<br>② 臨床検査部門と病理診断部門は同一部門にまとめられている。 |     |             |
| 臨床部門が病理診断部門或いは臨床検査部門と開催した症例検討会の開催頻度 | 検査部門；毎日<br>病理診断部門；毎日                                     |     |             |
| 剖検の状況                               | 剖検症例数  | 33例 | 剖検率<br>9.9% |

## 高度の医療技術の開発及び評価の実績

## 1 研究費補助等の実績

| 研究課題名  | 研究者氏名 | 所属部署    | 金額(円)      | 補助元又は委託元              |
|--|-------|---------|------------|-----------------------|
| ATLに対する有効な造血幹細胞移植/細胞・免疫療法の開発                                 | 内山 卓  | 血液・腫瘍内科 | 11,200,000 | 補 委 文部科学省特定領域研究継続     |
| レトロウイルスによる抗ウイルス宿主因子アポベック蛋白回避機構に関する研究                         | 高折 晃史 | 血液・腫瘍内科 | 6,400,000  | 補 委 文部科学省特定領域研究継続     |
| 鉄の利用障害による慢性貧血の病態解明   | 川端 浩  | 血液・腫瘍内科 | 1,600,000  | 補 委 文部科学省基盤研究(C)継続    |
| ヒト好中球におけるオゾン産生の機序解析ならびに殺菌増強作用への応用                            | 山下 浩平 | 血液・腫瘍内科 | 1,200,000  | 補 委 文部科学省基盤研究(C)新規    |
| 成人T細胞白血病の腫瘍特異的治療の開発に向けた基礎的研究                                 | 菱澤 方勝 | 血液・腫瘍内科 | 1,500,000  | 補 委 文部科学省若手研究(B)継続    |
| 悪性リンパ腫関連転座を保有するリンパ球のマウス生体内における性状・動態解析                        | 錦織 桃子 | 血液・腫瘍内科 | 1,900,000  | 補 委 文部科学省若手研究(B)新規    |
| 骨髄異形成症候群に対する病態解明・治療法の開発に関する研究                                | 内山 卓  | 血液・腫瘍内科 | 2,000,000  | 補 委 難治性疾患克服研究事業継続     |
| 特発性造血障害に関する調査研究  | 内山 卓  | 血液・腫瘍内科 | 2,000,000  | 補 委 難治性疾患克服研究事業新規     |
| Vif/APOBEC3Gの相互作用を標的とした新規抗HIV-1薬の開発                          | 高折 晃史 | 血液・腫瘍内科 | 7,200,000  | 補 委 エイズ対策研究事業新規       |
| 薬剤耐性HIVの発生机序とその制御方法に関する研究                                    | 高折 晃史 | 血液・腫瘍内科 | 3,500,000  | 補 委 エイズ対策研究事業継続       |
| WT1ペプチドとゾレドロン酸を添加した樹状細胞による急性骨髄性白血病に対する細胞免疫療法(臨床第I相/前期第II相試験) | 石川 隆之 | 血液・腫瘍内科 | 6,500,000  | 補 委 株式会社<br>メディネット    |
| ヒトDCによる寛容誘導機構の解明、粘膜帰巢および寛容誘導特性を備えたヒトDC培養技術の確立                | 門脇 則光 | 血液・腫瘍内科 | 2,600,000  | 補 委 (独)科学技術振興機構       |
| CpGオリゴヌクレオチド(CpG ODN)の抗腫瘍作用及び各種疾患に対する免疫作用の研究開発               | 門脇 則光 | 血液・腫瘍内科 | 13,200,000 | 補 委 SBIバイオ<br>テック株式会社 |
| 新規免疫細胞治療法の開発   | 門脇 則光 | 血液・腫瘍内科 | 15,180,000 | 補 委 SBIバイオ<br>テック株式会社 |
| 新規免疫細胞治療法の開発についての研究  | 門脇 則光 | 血液・腫瘍内科 | 5,500,000  | 補 委 医療法人慈照会           |

注)1国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを入力すること。

2「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を入力すること。

3「補助又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

小計15

## 高度の医療技術の開発及び評価の実績

## 1 研究費補助等の実績

| 研究課題名                                    | 研究者氏名            | 所属部署     | 金額(円)      | 補助元又は委託元               |
|--|------------------|----------|------------|------------------------|
| ラルテグラビルが抗H I V-1 宿主因子APOBEC3Gに与える影響      | 高折 晃史            | 血液・腫瘍内科  | 1,300,000  | 補<br>委 萬有製薬(株)         |
| 脂肪内分泌代謝学を基盤としたメタボリック症候群のトランスレーショナルリサーチ   | 中尾 一和            | 内分泌・代謝内科 | 11,900,000 | 補<br>委 文部科学省基盤研究(S)継続  |
| NADPHを仲立ちとする酵素ネットワークに焦点を当てた脂肪組織機能異常の機序解明 | 益崎 裕章            | 内分泌・代謝内科 | 4,700,000  | 補<br>委 文部科学省基盤研究(B)継続  |
| 心筋細胞の機能維持におけるNRSF-NRSE系とPPAR系とのクロストークの解明 | 原田 昌樹            | 内分泌・代謝内科 | 1,300,000  | 補<br>委 文部科学省基盤研究(C)継続  |
| レプチンを用いた新しい糖尿病治療法の開発                     | 海老原 健            | 内分泌・代謝内科 | 1,300,000  | 補<br>委 文部科学省基盤研究(C)継続  |
| CNP/GC-B系による骨伸長促進メカニズムの解明と骨系統疾患治療への展開研究  | 八十田 明宏           | 内分泌・代謝内科 | 1,300,000  | 補<br>委 文部科学省基盤研究(C)継続  |
| 誘導型コンディショナルノックアウトマウスを用いたCTGFの腎疾患における役割   | 横井 秀基            | 内分泌・代謝内科 | 1,100,000  | 補<br>委 文部科学省若手研究(B)継続  |
| Notchシグナルによる膵内分泌細胞発生機構の解明と再生医療への応用       | 藤倉 純二            | 内分泌・代謝内科 | 1,600,000  | 補<br>委 文部科学省若手研究(B)継続  |
| ヒトES細胞からの骨格筋細胞の分化誘導とその内分泌臓器としての分化過程の解明   | 曾根 正勝            | 内分泌・代謝内科 | 1,300,000  | 補<br>委 文部科学省若手研究(B)継続  |
| 間葉系幹細胞を用いた骨欠損・骨代謝疾患の治療法の開発               | 三浦晶子(RPD) 中尾一和教授 | 内分泌・代謝内科 | 1,100,000  | 補<br>委 文部科学省特別研究員奨励費継続 |
| 高齢者医療とQOL改善に対するグレリンの臨床応用とその基盤的研究         | 中尾 一和            | 内分泌・代謝内科 | 1,600,000  | 補<br>委 長寿科学総合研究事業継続    |
| 脂肪細胞由来ホルモン、レプチンのトランスレーショナルリサーチの推進        | 中尾 一和            | 内分泌・代謝内科 | 66,942,000 | 補<br>委 医療技術実用化総合研究事業新規 |
| 非ペプチド性生体内有機化合物による上皮形質誘導保持作用の分子機構の解明      | 森 潔              | 内分泌・代謝内科 | 2,100,000  | 補<br>委 文部科学省基盤研究(C)新規  |
| 心筋胎児型イオンチャンネルの発現制御機構と新規心不全治療標的としての意義の解明  | 桑原 宏一郎           | 内分泌・代謝内科 | 9,200,000  | 補<br>委 文部科学省基盤研究(B)新規  |
| 糖尿病性腎症における新規バイオマーカー及び治療標的の探索             | 菅原 照             | 内分泌・代謝内科 | 1,200,000  | 補<br>委 文部科学省基盤研究(C)継続  |

注) 1国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを入力すること。

2「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を入力すること。

3「補助又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を入力すること。

## 高度の医療技術の開発及び評価の実績

## 1 研究費補助等の実績

| 研究課題名   | 研究者氏名  | 所属部署     | 金額(円)     | 補助元又は委託元  |
|---|--------|----------|-----------|---|
| 腎臓におけるNa利尿ペプチド系のトランスレシヨナルリサーチと探索的臨床応用   | 向山 政志  | 内分泌・代謝内科 | 1,500,000 | 補<br>委<br>文部科学省基盤研究(C)新規  |
| ヒト脂肪細胞の再生移植治療法の開発—脂肪萎縮性糖尿病ヌードマウスによる基礎検討—  | 中尾 一和  | 内分泌・代謝内科 | 3,200,000 | 補<br>委<br>文部科学省萌芽研究新規   |
| 薬剤誘導性グレリン細胞腫瘍化マウスの作製—慢性薬理作用の解明と細胞株樹立  | 岩倉 浩   | 内分泌・代謝内科 | 1,300,000 | 補<br>委<br>文部科学省若手研究(B)継続  |
| ジフテリアトキシン受容体強制発現システムを用いたグレリン分泌低下マウスの開発  | 有安 宏之  | 内分泌・代謝内科 | 1,300,000 | 補<br>委<br>文部科学省若手研究(B)継続  |
| 病的心筋リモデリングにおける新規治療標的としてのTRPCチャンネルの意義の解明   | 木下 秀之  | 内分泌・代謝内科 | 2,200,000 | 補<br>委<br>文部科学省若手研究(B)新規  |
| 脂肪毒性および耐糖能異常の新規治療標的としてのG蛋白共役型—脂肪酸受容体の意義   | 富田 努   | 内分泌・代謝内科 | 1,700,000 | 補<br>委<br>文部科学省若手研究(B)新規  |
| 代謝症候群における分子標的としての低分子量G蛋白質関連分子ROCK2の意義   | 野口 倫生  | 内分泌・代謝内科 | 1,700,000 | 補<br>委<br>文部科学省若手研究(B)新規  |
| 脂質関連核内受容体の甲状腺ホルモン代謝調節機序への作用と高脂血症治療薬への展開   | 金本 巨哲  | 内分泌・代謝内科 | 1,900,000 | 補<br>委<br>文部科学省若手研究(B)新規  |
| 末梢動脈疾患におけるナトリウム利尿ペプチド系の意義の検討と治療応用   | 朴 貴典   | 内分泌・代謝内科 | 2,000,000 | 補<br>委<br>文部科学省若手研究(B)新規  |
| 脱ヨード酵素遺伝子転写調節機構を利用した選択的甲状腺ホルモン作用調節因子の探索   | 金本 巨哲  | 内分泌・代謝内科 | 600,000   | 補<br>委<br>文部科学省若手研究(B)継続  |
| メタボエイジングの分子機構と抗加齢医療応用に対する心血管内分泌代謝学的アプローチ  | 曾根 正勝  | 内分泌・代謝内科 | 100,000   | 補<br>委<br>文部科学省本学分担者用継続   |
| ES細胞を用いた幹細胞代謝と老化に対する心血管ホルモンの作用とメタボローム解析   | 曾根 正勝  | 内分泌・代謝内科 | 200,000   | 補<br>委<br>文部科学省本学分担者用新規   |
| 中枢性摂食異常症に関する調査研究  | 中尾 一和  | 内分泌・代謝内科 | 1,500,000 | 補<br>委<br>難治性疾患克服研究事業新規   |
| E-3174を用いたangiotensin II type1受容体阻害の不整脈予防効果の検討  | 桑原 宏一郎 | 内分泌・代謝内科 | 2,730,000 | 補<br>委<br>萬有製薬(株)   |
| Elicidation of the contribution of HCN channels to cardiac sudden death and hcart failure in cardiac spscific dominant-negative | 桑原 宏一郎 | 内分泌・代謝内科 | 8,000,000 | 補<br>委<br>INSTITUT DE RECHERCHES INTERNATIONALES SERVIER<br>Director of Cardiovascular Therapeutic Division<br>G. LEBEROURS |

注) 1国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを入力すること。

2「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を入力すること。

3「補助又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を入力すること。

小計15

## 高度の医療技術の開発及び評価の実績

## 1 研究費補助等の実績

| 研究課題名   | 研究者氏名  | 所属部署     | 金額(円)      | 補助元又は委託元                          |
|---|--------|----------|------------|-----------------------------------|
| 京都大学 i P S細胞研究統合推進拠点                              | 中尾 一和  | 内分泌・代謝内科 | 23,660,000 | 補<br>○<br>委 文部科学省                 |
| 抗肥満、血管再生因子としての生理活性ペプチドの治療応用                       | 中尾 一和  | 内分泌・代謝内科 | 1,500,000  | 補<br>○<br>委 国立循環器病センター            |
| ナトリウム利尿ペプチド系のシグナローム解析と代謝、循環器疾患治療への応用              | 中尾 一和  | 内分泌・代謝内科 | 2,000,000  | 補<br>○<br>委 国立循環器病センター            |
| TAK-536 の2型糖尿病新規発症およびインスリン標的臓器の脂質蓄積に及ぼす影響の検討      | 海老原 健  | 内分泌・代謝内科 | 未定         | 補<br>○<br>委 武田薬品工業株式会社            |
| マウスモデルを用いた拡張性心筋症の進展および不整脈死におけるレニンの役割の解明           | 桑原 宏一郎 | 内分泌・代謝内科 | 3,300,000  | 補<br>○<br>委 ノバルティスファーマ株式会社        |
| C型ナトリウム利尿ホルモンの機能解析                                | 中尾 一和  | 内分泌・代謝内科 | 2,200,000  | 補<br>○<br>委 中外製薬株式会社              |
| 内軟骨性骨化の促進及びその治療応用のための基礎検討                         | 中尾 一和  | 内分泌・代謝内科 | 94,500,000 | 補<br>○<br>委 中外製薬株式会社              |
| 心不全・貧血の病態に関する基礎研究 Dahl-Rat による心不全・貧血モデルと鉄代謝に関する検討 | 森 潔    | 内分泌・代謝内科 | 2,200,000  | 補<br>○<br>委 中外製薬株式会社              |
| 代謝制御における新たな鍵分子NRDcの発見：そのメタボリックシンドロームでの意義          | 北 徹    | 循環器内科    | 5,000,000  | 補<br>○<br>委 文部科学省基盤研究(B)新規        |
| がん化における低分子量GTP結合蛋白質Ralの機能                         | 堀内 久徳  | 循環器内科    | 6,500,000  | 補<br>○<br>委 文部科学省特定領域研究新規         |
| 二光子レーザー顕微鏡を用いた心筋虚血再灌流傷害の制御機構解明と心筋保護治療の確立          | 赤尾 昌治  | 循環器内科    | 1,300,000  | 補<br>○<br>委 文部科学省基盤研究(C)新規        |
| 心筋代謝調節におけるmicroRNAの役割とその制御機構の解明                   | 尾野 亘   | 循環器内科    | 1,400,000  | 補<br>○<br>委 文部科学省基盤研究(C)新規        |
| microRNAの制御による動脈硬化症の治療法開発                         | 北 徹    | 循環器内科    | 3,200,000  | 補<br>○<br>委 文部科学省萌芽研究新規           |
| 動脈硬化性疾患の発症予知・進展予防に関する研究                           | 木村 剛   | 循環器内科    | 5,000,000  | 補<br>○<br>委 循環器疾患等生活習慣病対策総合研究事業継続 |
| 脂肪細胞由来miRNA制御による肥満/心血管疾患合併症に対する治療戦略の開発            | 尾野 亘   | 循環器内科    | 5,000,000  | 補<br>○<br>委 (独)科学技術振興機構           |

注) 1国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを入力すること。

2「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を入力すること。

3「補助又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を入力すること。

小計15

## 高度の医療技術の開発及び評価の実績

## 1 研究費補助等の実績

| 研究課題名  | 研究者氏名         | 所属部署          | 金額(円)      | 補助元又は委託元                |
|--|---------------|---------------|------------|-------------------------|
| 日本人における血漿中Lp-PLA2濃度およびLp-PLA2遺伝子多型と冠動脈疾患との関連の検討：断面・症例対照研究  | 北 徹           | 循環器内科         | 4,500,000  | 補<br>⑤ グラクソ・スミスクライン     |
| 循環器臨床疾患にかかる医師主導型多施設臨床試験並びに研究調査   | 木村 剛          | 循環器内科         | 91,476     | 補<br>⑤ (財)生産開発科学研究所     |
| 電気生理学及び治療に関わるソフトウェア開発についての研究   | 木村 剛          | 循環器内科         | 1,501,500  | 補<br>⑤ 株式会社エムアイディ       |
| アルコール関連発がんの分子メカニズム解明と予防および早期診断への応用   | 武藤 学          | 消化器内科<br>内視鏡部 | 1,700,000  | 補<br>⑤ 文部科学省基盤研究(C)新規   |
| 内視鏡的分子イメージングの開発とその臨床応用に関する研究   | 江副 康正         | 消化器内科<br>内視鏡部 | 2,000,000  | 補<br>⑤ 文部科学省若手研究(B)新規   |
| Perfusion CTを用いた重症急性膵炎における早期の膵実質血流の解析  | 辻喜久(DCI)千葉勉教授 | 消化器内科<br>内視鏡部 | 900,000    | 補<br>⑤ 文部科学省特別研究員奨励費継続  |
| 炎症性腸疾患の画期的治療法に関する臨床研究  | 千葉 勉          | 消化器内科<br>内視鏡部 | 4,000,000  | 補<br>⑤ 難治性疾患克服研究事業継続    |
| QOLの向上をめざしたがん治療法の開発研究  | 武藤 学          | 消化器内科<br>内視鏡部 | 3,500,000  | 補<br>⑤ 第3次対がん総合戦略研究事業継続 |
| 早期消化管がんに対する内視鏡的治療の安全性と有効性の評価に関する研究-粘膜下層浸潤臨床病期I(T1N0M0)食道がんに対するEMR/化学放射線療法併用療法の有効性に関する第II相試験:JCOG0508   | 武藤 学          | 消化器内科<br>内視鏡部 | 29,100,000 | 補<br>⑤ がん臨床研究事業新規       |
| 医薬品や医療機器のうち、諸外国では標準的な治療法として用いられていながら我が国では実用化されていない治療法等のエビデンスの確立に係る臨床研究の計画に関する研究-食道がん化学放射線療法後局所再発例に対するタボルフィリンナトリウム(レザフィリン)及び半導体レーザー(PDレーザー)を用いた光線力学療法の多施設第II相試験 | 武藤 学          | 消化器内科<br>内視鏡部 | 7,997,000  | 補<br>⑤ 医療技術実用化総合研究事業新規  |
| 「重症クローン病患者に対するタクロリムス療法」に向けての臨床試験の実施に関する研究  | 千葉 勉          | 消化器内科<br>内視鏡部 | 35,776,000 | 補<br>⑤ 医療技術実用化総合研究事業新規  |
| 高周波フードナイフの開発   | 宮本 心一         | 消化器内科<br>内視鏡部 | 1,100,000  | 補<br>⑤ フジノン(株)          |
| 消化管における分光内視鏡画像処理の有用性の検証  | 仲瀬 裕志         | 消化器内科<br>内視鏡部 | 1,100,000  | 補<br>⑤ フジノン(株)          |
| 関節リウマチにおける生物学的製剤の長期安全性と副作用リスク因子に関する疫学研究  | 藤井 隆夫         | 免疫・膠原病内科      | 300,000    | 補<br>⑤ 文部科学省本学分担者継続     |
| 疾患特異的な免疫制御法および抗炎症作用を有する新規生物製剤・低分子化合物の開発  | 白井 崇          | 免疫・膠原病内科      | 1,200,000  | 補<br>⑤ 文部科学省基盤研究(C)継続   |

注) 1国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。

3「補助又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

小計15

## 高度の医療技術の開発及び評価の実績

## 1 研究費補助等の実績

| 研究課題名  | 研究者氏名  | 所属部署     | 金額(円)      | 補助元又は委託元                       |
|--|--------|----------|------------|--------------------------------|
| 関節リウマチの重症度、治療反応性に関わる遺伝子多型の検索                       | 大村 浩一郎 | 免疫・膠原病内科 | 1,300,000  | 補<br>委<br>文部科学省基盤研究(C)新規       |
| 抗リウマチ薬投与下のヒト成熟破骨細胞における関節リウマチ特異自己抗原の機能解析            | 野島 崇樹  | 免疫・膠原病内科 | 2,100,000  | 補<br>委<br>文部科学省若手研究(B)新規       |
| SLEに対するB細胞除去後の免疫再構築におけるBAFFの役割                     | 川端 大介  | 免疫・膠原病内科 | 1,700,000  | 補<br>委<br>文部科学省若手研究(B)新規       |
| 混合性結合組織病の病態解明と治療法の確立に関する研究                         | 三森 経世  | 免疫・膠原病内科 | 24,000,000 | 補<br>委<br>難治性疾患克服研究事業継続        |
| 関節リウマチの早期診断法の確立及び臨床経過の予測に関する研究                     | 三森 経世  | 免疫・膠原病内科 | 2,500,000  | 補<br>委<br>免疫アレルギー疾患予防・治療研究事業継続 |
| 新たな診断・治療法開発のための免疫学的手法の開発                           | 三森 経世  | 免疫・膠原病内科 | 3,000,000  | 補<br>委<br>難治性疾患克服研究事業継続        |
| 難知性血管年に関する調査研究                                     | 藤井 隆夫  | 免疫・膠原病内科 | 1,000,000  | 補<br>委<br>難治性疾患克服研究事業継続        |
| 新規疾患、IgG4関連多臓器リンパ増殖性疾患(IgG4+MOLPS)の確立のための研究        | 三森 経世  | 免疫・膠原病内科 | 未定         | 補<br>委<br>難治性疾患克服研究事業継続        |
| 関節炎抑制蛋白によるリウマチ性疾患の病態解析と新規治療法開発に関する研究               | 三森 経世  | 免疫・膠原病内科 | 4,500,000  | 補<br>委<br>文部科学省基盤研究(B)継続       |
| 最重症型関節リウマチ(ムチランス型)の発症および進展に関わる遺伝子の検索               | 大村 浩一郎 | 免疫・膠原病内科 | 1,100,000  | 補<br>委<br>文部科学省基盤研究(C)継続       |
| 疾患特異的な免疫制御法および抗炎症作用を有する新規生物製剤・低分子化合物の開発            | 白井 崇   | 免疫・膠原病内科 | 1,300,000  | 補<br>委<br>文部科学省基盤研究(C)新規       |
| 混合性結合組織病の病態解明と治療法の確立に関する研究                         | 三森 経世  | 免疫・膠原病内科 | 24,000,000 | 補<br>委<br>難治性疾患克服研究事業新規        |
| 新たな診断・治療法開発のための免疫学的手法の開発                           | 三森 経世  | 免疫・膠原病内科 | 3,000,000  | 補<br>委<br>難治性疾患克服研究事業新規        |
| 多発性筋炎/皮膚筋炎の診断・病経分類・予後予測に対する抗アミノアシルtRNA合成酵素体測定試薬の開発 | 三森 経世  | 免疫・膠原病内科 | 未定         | 補<br>委<br>株式会社医学生物学研究所         |
| 敗血症病態における転写因子群の機能解析と遺伝子治療の確立                       | 松田 直之  | 救急部      | 5,100,000  | 補<br>委<br>文部科学省基盤研究(B)継続       |

注) 1国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。

3「補助又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

小計15

## 高度の医療技術の開発及び評価の実績

## 1 研究費補助等の実績

| 研究課題名   | 研究者氏名  | 所属部署     | 金額(円)      | 補助元又は委託元                      |
|---|--------|----------|------------|-------------------------------|
| 敗血症病態における骨髄由来上皮分化細胞を用いた組織再生理論の確立  | 松田 直之  | 救急部      | 2,300,000  | 補<br>委<br>文部科学省萌芽研究新規         |
| MRI装置を用いた死後画像診断におけるスペクトルデータの活用に関する基盤研究  | 小池 薫   | 救急部      | 400,000    | 補<br>委<br>文部科学省本学分担者用新規       |
| 新規小胞体誘導蛋白質の脳変性疾患抑制機構と薬物作用機構   | 高橋 良輔  | 神経内科     | 300,000    | 補<br>委<br>文部科学省本学分担者用継続       |
| ヒトES細胞を用いた <i>in vitro</i> 血管神経細胞分化システムによる「虚血脳再生ホルモン」の探索とホルモン補償による新規認知症治療法の開発 | 高橋 良輔  | 神経内科     | 2,500,000  | 補<br>委<br>長寿科学総合研究事業継続        |
| パーキン蛋白の機能解析と治療法の開発  | 高橋 良輔  | 神経内科     | 4,000,000  | 補<br>委<br>こころの健康科学研究事業継続      |
| 神経変性疾患に関する調査研究  | 高橋 良輔  | 神経内科     | 1,000,000  | 補<br>委<br>難治性疾患克服研究事業新規       |
| てんかんに対する新たな治療法開発と標準化に関する研究  | 池田 昭夫  | 神経内科     | 700,000    | 補<br>委<br>国立精神・神経センター         |
| タウオパチー型認知症の治療とモニタリング技術の開発   | 井上 治久  | 神経内科     | 17,000,000 | 補<br>委<br>文部科学省               |
| 脳虚血再灌流後の'no-reflow'現象に対するシロスタゾールの治療効果の検討                                      | 猪原 匡史  | 神経内科     | 6,500,000  | 補<br>委<br>大塚製薬(株)             |
| バイオマーカーを導入した原発性乳癌の集学的治療アルゴリズムの構築と意思決定過程の定式化に関する研究                             | 戸井 雅和  | 乳腺外科     | 38,280,000 | 補<br>委<br>第3次対がん総合戦略研究事業継続    |
| 乳酸菌摂取と乳がんの関連性を検討するケース・コントロール研究  | 戸井 雅和  | 乳腺外科     | 単価50,000   | 補<br>委<br>(財)パブリックヘルスリサーチセンター |
| JBCRGが管理する臨床試験の付随研究としてのトランスレーショナルリサーチ   | 戸井 雅和  | 乳腺外科     | 単価20,000   | 補<br>委<br>有限責任中間法人JBCRG       |
| キメラ肝臓を用いた次世代の肝臓移植に関する基礎研究   | 上本 伸二  | 肝胆膵・移植外科 | 9,000,000  | 補<br>委<br>文部科学省基盤研究(A)新規      |
| 術前T細胞サブセット解析に基づく肝移植後免疫抑制療法とC型肝炎再発制御   | 高田 泰次  | 肝胆膵・移植外科 | 5,500,000  | 補<br>委<br>文部科学省基盤研究(B)継続      |
| 生物学的特性に基づいた多経路制御による膵癌治療の基盤的研究   | 土井 隆一郎 | 肝胆膵・移植外科 | 6,200,000  | 補<br>委<br>文部科学省基盤研究(A)新規      |

注) 1国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なるものを記入すること。

2「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。

3「補助又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

小計15

## 高度の医療技術の開発及び評価の実績

## 1 研究費補助等の実績

| 研究課題名  | 研究者氏名  | 所属部署     | 金額(円)      | 補助元又は委託元              |
|--|--------|----------|------------|-----------------------|
| ヒトES細胞由来肝細胞の分化誘導法確立と細胞移植における有用性の検討   | 猪飼 伊和夫 | 肝胆膵・移植外科 | 5,500,000  | 補<br>委 文部科学省基盤研究(A)新規 |
| 抗原感作後の紫外線照射による制御性T細胞を介した抗原特異的な免疫寛容誘導の解析  | 堀 智英   | 肝胆膵・移植外科 | 800,000    | 補<br>委 文部科学省基盤研究(C)新規 |
| 小胞体ストレス制御による肝癌治療の適応拡大  | 波多野 悦朗 | 肝胆膵・移植外科 | 1,900,000  | 補<br>委 文部科学省基盤研究(C)新規 |
| 新規表面抗原の同定に基づくマウス肝幹細胞の分離および特性解析   | 安近 健太郎 | 肝胆膵・移植外科 | 1,400,000  | 補<br>委 文部科学省基盤研究(C)新規 |
| 肝幹細胞単離および肝癌細胞との特性比較解析による肝癌幹細胞同定  | 猪飼 伊和夫 | 肝胆膵・移植外科 | 1,400,000  | 補<br>委 文部科学省萌芽研究継続    |
| 膵幹細胞分化に関わるPTF1A遺伝子上位制御システムの解明  | 川口 義弥  | 肝胆膵・移植外科 | 1,600,000  | 補<br>委 文部科学省萌芽研究新規    |
| 切除可能膵胆道領域がんに対する補助療法の研究   | 土井 隆一郎 | 肝胆膵・移植外科 | 600,000    | 補<br>委 がん臨床研究事業継続     |
| 重症インスリン依存状態糖尿病に対する免疫制御剤を併用した心停止ドナー膵島移植の検討  | 上本 伸二  | 肝胆膵・移植外科 | 14,300,000 | 補<br>委 (株)レメディス       |
| 臓器移植における新たな免疫抑制療法の開発に関する研究(SRP)  | 上本 伸二  | 肝胆膵・移植外科 | 30,000,000 | 補<br>委 アステラス製薬(株)     |
| 切除不能進行膵癌(局所進行又は転移性)に対するGemcitabine療法 / TS-1療法 / Gemcitabine+TS-2併用療法の第Ⅲ相無作為化比較試験 | 土井 隆一郎 | 肝胆膵・移植外科 | 単価315,000  | 補<br>委 大鵬薬品工業(株)      |
| シロスタゾールの肝線維化抑制効果に関する基礎的検討  | 秦 浩一郎  | 肝胆膵・移植外科 | 6,500,000  | 補<br>委 大塚製薬(株)        |
| アンジオポイエチン-2受容体系の制御による糖尿病網膜症の早期病変抑制治療   | 王 英泰   | 眼科       | 1,900,000  | 補<br>委 文部科学省基盤研究(C)新規 |
| ゲノム解析、幹細胞生物学を利用した日本人加齢黄斑変性の発症と進行機序の解明  | 吉村 長久  | 眼科       | 5,700,000  | 補<br>委 文部科学省基盤研究(B)継続 |
| 網膜培養系を用いた血管新生のメカニズムとその制御   | 西嶋 一晃  | 眼科       | 1,600,000  | 補<br>委 文部科学省基盤研究(C)継続 |
| スペクトラルドメイン光干渉断層系による緑内障診断プログラムの開発   | 板谷 正紀  | 眼科       | 1,500,000  | 補<br>委 文部科学省基盤研究(C)新規 |

注) 1国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なるものを記入すること。

2「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。

3「補助又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

小計15

## 高度の医療技術の開発及び評価の実績

## 1 研究費補助等の実績

| 研究課題名  | 研究者氏名  | 所属部署  | 金額(円)      | 補助元又は委託元                       |
|--|--------|-------|------------|--------------------------------|
| 温度感受性リポソーム法を用いた黄斑変性の病態解明と新治療法の開発                 | 田村 寛   | 眼科    | 1,700,000  | 補<br>委<br>文部科学省若手研究(B)新規       |
| 角膜血管新生における血小板・血管内皮前駆細胞の動態の同時観察およびその機能解析          | 山城 健児  | 眼科    | 1,800,000  | 補<br>委<br>文部科学省若手研究(B)新規       |
| 高深さ分解能OCTの研究評価                                   | 吉村 長久  | 眼科    | 16,800,000 | 補<br>委<br>株式会社トプコン             |
| 高解像度眼底イメージング装置による生体画像情報取得と画像等解析ソフトウェアを用いる評価手法の検討 | 吉村 長久  | 眼科    | 5,433,750  | 補<br>委<br>株式会社ニデック             |
| 3D OCT-1000用眼疾患解析/診断支援ソフトウェアの研究                  | 吉村 長久  | 眼科    | 7,020,000  | 補<br>委<br>株式会社トプコン             |
| 卵巣癌播種性転移のシグナル経路解析とその抑制物質の探索                      | 小西 郁生  | 産科婦人科 | 5,500,000  | 補<br>委<br>文部科学省基盤研究(B)継続       |
| 生殖過程における組織再構築機構の解析-体循環細胞による再生機序の解明を目指して-         | 藤原 浩   | 産科婦人科 | 5,600,000  | 補<br>委<br>文部科学省基盤研究(B)新規       |
| 免疫賦活遺伝子を導入した血管内皮前駆細胞を用いた婦人科腫瘍の新生血管標的治療           | 万代 昌紀  | 産科婦人科 | 1,300,000  | 補<br>委<br>文部科学省基盤研究(C)継続       |
| マイクロアレイによる、卵巣明細胞腺癌に有効な薬剤の探索                      | 松村 謙臣  | 産科婦人科 | 1,350,000  | 補<br>委<br>文部科学省若手研究(スタートアップ)継続 |
| 自己免疫の活性化を利用した新しい婦人科癌免疫療法の確立と臨床応用                 | 高倉 賢二  | 産科婦人科 | 6,300,000  | 補<br>委<br>文部科学省基盤研究(A)継続       |
| 胎生期低栄養による成長後の代謝異常発生機序の解明とその予防戦略の開発               | 由良 茂夫  | 産科婦人科 | 8,112,000  | 補<br>委<br>(独)科学技術振興機構          |
| 難治性血液腫瘍疾患に対する新規治療法の開発と新規細胞死機序の解析                 | 足立 壯一  | 小児科   | 1,300,000  | 補<br>委<br>文部科学省基盤研究(C)新規       |
| ヒトES細胞の増殖分化機構の解明とその臨床応用に向けた基盤技術開発                | 中畑 龍俊  | 小児科   | 25,300,000 | 補<br>委<br>文部科学省基盤研究(S)継続       |
| 繊維芽細胞由来ES様細胞(iPS細胞)を用いた造血・免疫細胞作成の基盤技術開発          | 平家 俊男  | 小児科   | 5,400,000  | 補<br>委<br>文部科学省基盤研究(B)新規       |
| C I A S 1 遺伝子異常を伴わないC I N C A症候群の病因病態の解明         | 西小森 隆太 | 小児科   | 1,300,000  | 補<br>委<br>文部科学省基盤研究(C)継続       |

注) 1国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを入力すること。

2「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を入力すること。

3「補助又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を入力すること。

小計15

## 高度の医療技術の開発及び評価の実績

## 1 研究費補助等の実績

| 研究課題名  | 研究者氏名          | 所属部署 | 金額(円)      | 補助元又は委託元                 |
|--|----------------|------|------------|--------------------------|
| 体細胞より作成された胚性幹(E S)様細胞を用いた造血細胞作成の基盤技術開発       | 平家 俊男          | 小児科  | 1,600,000  | 補 委 文部科学省萌芽研究継続          |
| シスタチンCを用いたヒト胚性幹細胞由来の神経幹細胞作製の基盤技術開発           | 加藤 竹雄          | 小児科  | 1,300,000  | 補 委 文部科学省若手研究(B)継続       |
| 新規FGF2阻害分子の同定・機能解析と臨床応用                      | 山中 康成          | 小児科  | 1,500,000  | 補 委 文部科学省若手研究(B)継続       |
| 線維芽細胞由来人工万能細胞の心筋内皮への分化の検討と胚性幹細胞との比較          | 馬場 志郎          | 小児科  | 1,700,000  | 補 委 文部科学省若手研究(B)新規       |
| CINCA症候群患者の臨床的解析と疾患関連CIAS1遺伝子変異の機能的解析        | 斎藤潤(DC2)中畑龍俊教授 | 小児科  | 900,000    | 補 委 文部科学省特別研究員奨励費継続      |
| 特発性造血障害に関する調査研究                              | 中畑 龍俊          | 小児科  | 2,000,000  | 補 委 難治性疾患克服研究事業新規        |
| 新たな移植細胞療法に向けた造血幹細胞のex vivo増幅技術の開発と応用         | 中畑 龍俊          | 小児科  | 25,000,000 | 補 委 免疫アレルギー疾患予防・治療研究事業新規 |
| 原発性免疫不全症候群に関する調査研究                           | 中畑 龍俊          | 小児科  | 1,500,000  | 補 委 難治性疾患克服研究事業継続        |
| 臍帯血を用いる造血幹細胞移植技術の高度化と安全性確保に関する研究             | 足立 壮一          | 小児科  | 500,000    | 補 委 免疫アレルギー疾患予防・治療研究事業新規 |
| 胎児期および乳幼児期の栄養状態がメタボリック・シンドロームの発症に及ぼす影響に関する研究 | 河井 昌彦          | 小児科  | 2,000,000  | 補 委 国立循環器病センター           |
| ヒトキフィリン遺伝子導入COS細胞培養上清中のヒト造血幹細胞増殖分化因子の解明-(4)  | 中畑 龍俊          | 小児科  | 5,670,000  | 補 委 アスピオファーマ(株)          |
| 京都大学iPS細胞研究統合推進拠点                            | 中畑 龍俊          | 小児科  | 35,750,000 | 補 委 文部科学省                |
| 筋ジストロフィーに対する治療研究を臨床に展開するための統括的研究             | 平家 俊男          | 小児科  | 2,200,000  | 補 委 国立精神・神経センター          |
| 温熱感受性受容体の作動薬を基にしたダリエー病の治療薬の開発                | 高橋 健造          | 皮膚科  | 1,300,000  | 補 委 文部科学省基盤研究(C)継続       |
| 制御性T細胞局所投与による円形脱毛症治療法の開発                     | 宮地 良樹          | 皮膚科  | 1,600,000  | 補 委 文部科学省萌芽研究継続          |

注)1国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。

3「補助又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

小計15

## 高度の医療技術の開発及び評価の実績

## 1 研究費補助等の実績

| 研究課題名                                    | 研究者氏名              | 所属部署  | 金額(円)      | 補助元又は委託元                 |
|--|--------------------|-------|------------|--------------------------|
| 泌尿器科がんの統合的OMICSデータの臨床応用を目指した検証研究         | 小川 修               | 泌尿器科  | 7,400,000  | 補 委 文部科学省基盤研究(A)継続       |
| ナノ複合体ベクターによる受容体ターゲティングを利用した膀胱特異的遺伝子治療法   | 兼松 明弘              | 泌尿器科  | 1,800,000  | 補 委 文部科学省基盤研究(C)継続       |
| 新規樹立Xenograftを用いた前立腺癌アンドロゲン非依存性増殖機構の解明   | 賀本 敏行              | 泌尿器科  | 1,000,000  | 補 委 文部科学省基盤研究(C)継続       |
| 膀胱発癌におけるG1-S期制御蛋白蓄積機序の解明と新規膀胱注化学療法開発への応用 | 渡部 淳               | 泌尿器科  | 1,080,000  | 補 委 文部科学省若手研究(スタートアップ)継続 |
| 新規樹立細胞株とXenograftを用いた前立腺癌に対する治療標的分子の同定   | 小林 恭 (DC1) 小川 修 教授 | 泌尿器科  | 900,000    | 補 委 文部科学省特別研究員奨励費継続      |
| 早期前立腺がんにおける根治術後の再発に対する標準的治療法の確立に関する研究    | 賀本 敏行              | 泌尿器科  | 1,000,000  | 補 委 がん臨床研究事業新規           |
| 前立腺癌の疾患感受性、治療反応性、および治療随伴副作用予測に関する遺伝子多型解析 | 小川 修               | 泌尿器科  | 5,000,000  | 補 委 文部科学省                |
| 先端的がん治療反応性予測用DNAチップの実用化開発                | 小川 修               | 泌尿器科  | 未定         | 補 委 東レ株式会社               |
| 内耳再生医療の開発ー内耳発生分子機構を応用したトランスレーショナルリサーチー   | 伊藤 壽一              | 耳鼻咽喉科 | 15,000,000 | 補 委 文部科学省基盤研究(A)新規       |
| 肝細胞増殖因子(HGF)・徐放ハイドロゲルを用いた内耳障害の低侵襲高度選択的治療 | 吉川 弥生              | 耳鼻咽喉科 | 1,300,000  | 補 委 文部科学省基盤研究(C)継続       |
| ドラッグデリバリーシステムを用いた細胞増殖因子による声帯萎縮の治療        | 平野 滋               | 耳鼻咽喉科 | 1,300,000  | 補 委 文部科学省萌芽研究継続          |
| 聴神経の機能再生：聴神経前駆細胞の聴神経内移植の試み               | 伊藤 壽一              | 耳鼻咽喉科 | 1,400,000  | 補 委 文部科学省萌芽研究新規          |
| 先天性・後天性高度難聴者の語音処理における聴皮質の変化              | 平海 晴一              | 耳鼻咽喉科 | 1,300,000  | 補 委 文部科学省若手研究(B)継続       |
| BMPシグナル活性化による内耳有毛細胞の再生                   | 坂本 達則              | 耳鼻咽喉科 | 1,300,000  | 補 委 文部科学省若手研究(B)継続       |
| ナノテクノロジー、再生医学を融合した人工内耳。人工蝸牛の開発           | 伊藤 壽一              | 耳鼻咽喉科 | 22,100,000 | 補 委 感覚器障害研究事業継続          |

注) 1国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。

3「補助又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

小計15

## 高度の医療技術の開発及び評価の実績

## 1 研究費補助等の実績

| 研 究 課 題 名                                | 研究者氏名 | 所属部署   | 金 額 (円)    | 補助元又は委託元              |
|--|-------|--------|------------|-----------------------|
| 前庭機能異常に関する調査研究                           | 伊藤 壽一 | 耳鼻咽喉科  | 1,000,000  | 補 委 難治性疾患克服研究事業新規     |
| 感音難聴に対する内耳薬物投与システム臨床応用に関する研究             | 中川隆之  | 耳鼻咽喉科  | 12,000,000 | 補 委 厚生労働省感覚器障害研究事業継続  |
| ナノテクノロジーを用いたDDSによる耳鳴の克服                  | 坂本達則  | 耳鼻咽喉科  | 5,000,000  | 補 委 厚生労働省医療機器推進研究事業継続 |
| 各種生理活性物質の内耳傷害抑制・再生に関する基礎的検討2             | 伊藤 壽一 | 耳鼻咽喉科  | 2,002,000  | 補 委 小野薬品株式会社          |
| 京都大学 i P S 細胞研究統合推進拠点                    | 伊藤 壽一 | 耳鼻咽喉科  | 24,700,000 | 補 委 文部科学省             |
| Chemical Genetics を応用した内示感覚細胞再生技術の開発     | 中川 隆之 | 耳鼻咽喉科  | 2,000,000  | 補 委 (独)科学技術振興機構       |
| 脂肪細胞由来幹細胞を用いた内耳再生に関する研究                  | 中川 隆之 | 耳鼻咽喉科  | 4,400,000  | 補 委 オリンパス株式会社         |
| 水素水の感音難聴予防・治療に関する効果の検討                   | 中川 隆之 | 耳鼻咽喉科  | 2,002,000  | 補 委 アイロム製薬株式会社        |
| 生体活性を有する多孔体チタンの運動器再建への応用                 | 中村 孝志 | 整形外科   | 11,700,000 | 補 委 文部科学省基盤研究 (A) 継続  |
| 骨特異的新規分泌タンパク HA 4 の基礎研究および臨床応用           | 秋山 治彦 | 整形外科   | 3,600,000  | 補 委 文部科学省基盤研究 (B) 継続  |
| 多孔体人工骨を用いた自己生体内骨組織工学技術の開発                | 藤林 俊介 | 整形外科   | 1,400,000  | 補 委 文部科学省基盤研究 (C) 継続  |
| 新規癌関連蛋白 C 7 o r f 2 4 を標的とした骨軟部肉腫の分子標的治療 | 中山 富貴 | 整形外科   | 1,500,000  | 補 委 文部科学省基盤研究 (C) 継続  |
| 関節軟骨の質的評価-遅延相造影核磁気共鳴断層像と超音波反射波解析による比較    | 小林 雅彦 | 整形外科   | 900,000    | 補 委 文部科学省本学分担者用継続     |
| 関節軟骨の質的評価-遅延相造影核磁気共鳴断層像と超音波反射波解析による比較    | 中村 孝志 | 整形外科   | 100,000    | 補 委 文部科学省本学分担者用継続     |
| 滑膜から樹立した幹細胞による顎関節組織再生に関する基礎的研究           | 藤村 和磨 | 歯科口腔外科 | 6,500,000  | 補 委 文部科学省基盤研究 (B) 新規  |

注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。

3 「補助又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

小計15

## 高度の医療技術の開発及び評価の実績

## 1 研究費補助等の実績

| 研究課題名  | 研究者氏名           | 所属部署   | 金額(円)       | 補助元又は委託元                    |
|--|-----------------|--------|-------------|-----------------------------|
| BMP2発現アデノウイルスベクターおよび吸収性材料による骨再生に関する研究  | 海原 真治           | 歯科口腔外科 | 1,350,000   | 補<br>委 文部科学省若手研究(スタートアップ)継続 |
| 歯科口腔領域におけるアドレノメデュリンの有効性に関する研究  | 中尾一祐(DC1)別所和久教授 | 歯科口腔外科 | 900,000     | 補<br>委 文部科学省特別研究員奨励費継続      |
| 人工生体材料と評価システムの開発および応用(SRP)   | 別所 和久           | 歯科口腔外科 | 12,600,000  | 補<br>委 トヨタ自動車(株)            |
| 腫瘍低酸素を標的とした生物学的および物理工学的新規放射線治療戦略   | 平岡 眞寛           | 放射線治療科 | 14,300,000  | 補<br>委 文部科学省特定領域研究継続        |
| 医学物理の基盤構築を通じた先進的高精度放射線治療技術開発に関する研究(SRP)  | 平岡 眞寛           | 放射線治療科 | 13,000,000  | 補<br>委 三菱重工業(株)             |
| マウスの同所性移植肺癌モデルとイメージングシステムを用いたTS-1と放射線の併用効果に関する研究   | 平岡 眞寛           | 放射線治療科 | 3,300,000   | 補<br>委 大鵬薬品工業(株)            |
| 悪性腫瘍等治療支援分子イメージング機器の開発課題3:PET/MRIシステム用分子プローブ製剤技術の開発(共通基盤技術、MRI用プローブ、自動合成装置)  | 平岡 眞寛           | 放射線治療科 | 23,735,250  | 補<br>委 日本メジフィジックス(株)        |
| 悪性腫瘍等治療支援分子イメージング機器の開発課題3:PET/MRIシステム用分子プローブ製剤技術の開発(共通基盤技術、MRI用プローブ、自動合成装置)  | 平岡 眞寛           | 放射線治療科 | 251,457,150 | 補<br>委 技術研究組合医療福祉機器研究所      |
| 悪性腫瘍等治療支援分子イメージング機器の開発課題1.近接撮像型部位別PET装置(乳房用プロトタイプ)の開発(a-4)マンモ用PET装置のトータルシステムの開発課題2.高分解能PET-CT/MRIシステムの開発(b-4)全身用DOI型PET装置のトータルシステム | 平岡 眞寛           | 放射線治療科 | 33,376,350  | 補<br>委 (株)島津製作所             |
| 悪性腫瘍等治療支援分子イメージング機器の開発課題2.高分解能PET-CT/MRIシステムの開発のうち(c)MRIの高機能化に関する研究開発(c-1)躯幹部拡散強調画像を広い領域・高速に撮像する技術の開発(c-2)末梢血流・代謝異常部位を高分解能に撮像する技   | 平岡 眞寛           | 放射線治療科 | 36,769,950  | 補<br>委 東芝メディカルシステムズ(株)      |
| 3次元CT画像を用いた高精度経時差分画像の作成とその臨床応用   | 石津 浩一           | 放射線診断科 | 2,100,000   | 補<br>委 文部科学省基盤研究(C)新規       |
| MRI分子機能画像による子宮頸癌の治療効果の予測   | 中井 朝子           | 放射線診断科 | 1,800,000   | 補<br>委 文部科学省若手研究(B)新規       |
| アルツハイマー病のシステム解析のための分子プローブ開発:新しい画像診断法の構築  | 石津 浩一           | 放射線診断科 | 200,000     | 補<br>委 文部科学省本学分担者用継続        |
| 64列マルチスライスCTを用いた胸腹部領域の低線量プロトコルの検討  | 富樫 かおり          | 放射線診断科 | 1,000,000   | 補<br>委 東芝メディカルシステムズ(株)      |
| MR装置の基本性能の向上 1)基本画質の向上<br>2)基本機能の向上  | 富樫 かおり          | 放射線診断科 | 2,970,000   | 補<br>委 東芝メディカルシステムズ株式会社     |

注)1国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを入力すること。

2「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を入力すること。

3「補助又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

小計15

## 高度の医療技術の開発及び評価の実績

## 1 研究費補助等の実績

| 研究課題名                                     | 研究者氏名  | 所属部署      | 金額(円)      | 補助元又は委託元                    |
|---|--------|-----------|------------|-----------------------------|
| ケロイド幹細胞：分離・同定とその発生病理学的意義                  | 鈴木 茂彦  | 形成外科      | 3,700,000  | 補<br>委 文部科学省基盤研究(B)継続       |
| 培養真皮、複合型培養皮膚の臨床応用に向けた基礎的研究                | 森本 尚樹  | 形成外科      | 1,300,000  | 補<br>委 文部科学省基盤研究(C)継続       |
| セリンプロテアーゼ様蛋白HtrA1をターゲットとした新規ケロイド治療の基礎的検討  | 内藤 素子  | 形成外科      | 1,300,000  | 補<br>委 文部科学省基盤研究(C)継続       |
| C5aアナフィラトキシン阻害ペプチドを用いた虚血再還流障害と挫滅症候群の治療実験  | 富士森 英之 | 形成外科      | 700,000    | 補<br>委 文部科学省若手研究(B)継続       |
| 体表臓器の研究開発                                 | 鈴木 茂彦  | 形成外科      | 24,880,800 | 補<br>委 国立大学法人<br>東京大学       |
| 細胞増殖因子保持型新規人工真皮の実用化と皮膚欠損、皮膚潰瘍に対する応用       | 鈴木 茂彦  | 形成外科      | 9,542,000  | 補<br>委 (独)科学技術振興機構          |
| 細胞増殖因子保持型新規人工真皮の実用化と皮膚欠損、皮膚潰瘍に対する応用       | 鈴木 茂彦  | 形成外科      | 0          | 補<br>委 グンゼ株式会社              |
| 糖関連物質のケロイド及び肥厚生癬痕治療効果に関する研究               | 鈴木 茂彦  | 形成外科      | 2,200,000  | 補<br>委 生化学工業株式会社            |
| ヒト誘導多能性幹(iPS)細胞由来心臓細胞の分化誘導と移植医療応用に関する研究   | 池田 義   | 心臓血管外科    | 10,000,000 | 補<br>委 再生医療実用化研究事業継続        |
| 内因性幹細胞の動員・生着・分化と心筋細胞肥大の情報伝達を標的とした新規心不全治療法 | 池田 義   | 心臓血管外科    | 2,000,000  | 補<br>委 政策創薬総合研究事業継続         |
| 心停止ドナーからの肺移植臨床応用をめざした大動物実験                | 伊達 洋至  | 呼吸器外科     | 8,100,000  | 補<br>委 文部科学省基盤研究(B)新規       |
| 新規ナノキャリアーを利用した癌の標的治療                      | 佐藤 澄   | 呼吸器外科     | 1,000,000  | 補<br>委 文部科学省萌芽研究新規          |
| 心臓死肺移植における、ドナー肺の評価とその保護に関する研究             | 陳 豊史   | 呼吸器外科     | 1,350,000  | 補<br>委 文部科学省若手研究(スタートアップ)継続 |
| 睡眠時無呼吸の間歇的及び持続的低酸素が血小板凝集能及び脂肪細胞に与える影響の検討  | 陳 和夫   | 呼吸管理睡眠制御学 | 2,100,000  | 補<br>委 文部科学省基盤研究(C)新規       |
| 睡眠時無呼吸発生時のみ下顎前突させ閉塞が消失しなければ陽圧送気する治療装置の開発  | 陳 和夫   | 呼吸管理睡眠制御学 | 50,000     | 補<br>委 文部科学省本学分担者用継続        |

注) 1国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを入力すること。

2「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を入力すること。

3「補助又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を入力すること。

小計15

## 高度の医療技術の開発及び評価の実績

## 1 研究費補助等の実績

| 研究課題名   | 研究者氏名  | 所属部署     | 金額(円)      | 補助元又は委託元           |
|---|--------|----------|------------|--------------------|
| 脳内情報処理の電気生理学的評価に関する研究                         | 伊藤 順子  | 検査部      | 200,000    | 補 委 文部科学省基盤研究(C)継続 |
| フローサイトメトリー技術を用いた異常細胞検出の研究                     | 一山 智   | 検査部      | 905,100    | 補 委 シスメックス株式会社     |
| ラジオ波焼灼術と経カテーテル肝動脈塞栓術併用療法の最適プロトコルの基礎的検討        | 柴田 登志也 | 放射線部     | 700,000    | 補 委 文部科学省基盤研究(C)継続 |
| 3テスラ磁気共鳴撮像装置における非造影血管撮像技術の開発                  | 小山 貴   | 放射線部     | 900,000    | 補 委 文部科学省若手研究(B)継続 |
| ナノテクノロジーを利用した組織障害を最小化する臨床用膵島分離技術の開発           | 興津 輝   | 臓器移植医療部  | 5,900,000  | 補 委 文部科学省基盤研究(B)継続 |
| 肝移植後のグラフト不全とグラフトの老化、寿命の関連                     | 宮川 文   | 臓器移植医療部  | 1,400,000  | 補 委 文部科学省若手研究(B)新規 |
| 生命科学・医学の発展に対応した社会規範形成ー生命倫理基本法の構築              | 江川 裕人  | 臓器移植医療部  | 200,000    | 補 委 文部科学省本学分担者用継続  |
| 信頼性の確立したGal完全ノックアウトプタを用いたプタ・サル間異種腎・膵島移植       | 興津 輝   | 臓器移植医療部  | 1,000,000  | 補 委 文部科学省本学分担者用継続  |
| 工学研究科・小寺秀俊教授「0275 工学部間接経費受入用」                 | 興津 輝   | 臓器移植医療部  | 500,000    | 補 委 (独)科学技術振興機構    |
| ET-Kyoto液を用いた細胞培養と細胞接着制御に関する研究                | 岩永 康裕  | 臓器移植医療部  | 550,000    | 補 委 株式会社大塚製薬工場     |
| ナノテクノロジーを利用した組織障害を最小化する臨床用膵島分離技術の開発           | 興津 輝   | 臓器移植医療部  | 0          | 補 委 宮崎県工業技術センター    |
| 先端医療の開発に必要な臨床試験を支える倫理基盤の整備                    | 村山 敏典  | 探索医療センタ- | 1,700,000  | 補 委 文部科学省基盤研究(C)継続 |
| 傷害腸管粘膜の再生修復におけるHGFの役割の検討                      | 沼田 政嗣  | 探索医療センタ- | 1,100,000  | 補 委 文部科学省若手研究(B)継続 |
| 新たな幹細胞増幅因子とヒト心臓内幹細胞を併用した心不全への自家細胞移植療法の開発      | 王 英正   | 探索医療センタ- | 7,700,000  | 補 委 文部科学省基盤研究(B)新規 |
| Pharmacogenomicsに基づいたテーラード癌化学療法の確立に関する研究(SRP) | 清水 章   | 探索医療センタ- | 25,000,000 | 補 委 (株)ヤクルト本社      |

注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なるものを記入すること。

2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。

3 「補助又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

小計15

## 高度の医療技術の開発及び評価の実績

## 1 研究費補助等の実績

| 研究課題名  | 研究者氏名   | 所属部署     | 金額(円)       | 補助元又は委託元                         |
|--|---------|----------|-------------|----------------------------------|
| bFGF/アテロコラーゲン製剤によるマウス血管新生モデルへの効果   | 福島 雅典   | 探索医療センタ- | 9,477,930   | 補<br>委 株式会社京都レ<br>メディス           |
| 脾臓移植部位の血管新生誘導能ならびに移植脾臓の保護機能を有する支持体の開発  | 福島 雅典   | 探索医療センタ- | 0           | 補<br>委 株式会社 高研                   |
| ホウ素中性子捕捉療法(BNCT)のための加速器中性子がん治療に用いるホウ素薬剤の治験申請に関わる準備研究                             | 福島 雅典   | 探索医療センタ- | 4,620,000   | 補<br>委 ステラファーマ<br>株式会社           |
| ホウ素中性子捕捉療法(BNCT)のための加速器中性子がん治療に用いるホウ素薬剤の治験申請に関わる準備研究                             | 福島 雅典   | 探索医療センタ- | 4,620,000   | 補<br>委 住友重機械工業<br>株式会社           |
| チオレドキシンによる急性呼吸器疾患新規治療法の開発  | 清水 章    | 探索医療センタ- | 5,375,000   | 補<br>委 (独) 医薬基盤<br>研究所           |
| 創薬・新規医療開発のアカデミア拠点形成  | 探索中尾 一和 | 探索医療センタ- | 243,600,000 | 補<br>委 文部科学省                     |
| 遺伝子組換えヒトチオレドキシン蛋白による急性肺障害治療薬の研究開発  | 中村 肇    | 探索医療センタ- | 1,940,000   | 補<br>委 レドックス・バイ<br>オサイエンス<br>(株) |
| 動脈硬化性疾患の成因と予防に関する探索研究  | 横出 正之   | 探索医療センタ- | 25,000,000  | 補<br>委 大塚製薬株式会<br>社              |
| プロパゲルマニウムのインスリン抵抗性に対する効果の検討  | 横出 正之   | 探索医療センタ- | 4,950,000   | 補<br>委 三和化学(株)                   |
| がん診療教育システム構築   | 柳原 一広   | 外来化学療法部  | 1,500,000   | 補<br>委 文部科学省基盤<br>研究(C)継続        |
| 薬物動態・薬理遺伝学に基づいたテーラーメイド抗がん剤治療の標準治療化に関する研究   | 石黒 洋    | 外来化学療法部  | 800,000     | 補<br>委 文部科学省基盤<br>研究(C)継続        |
| 横紋筋肉腫におけるメチル化DNA領域網羅的解析による発癌機構の究明  | 三沢 あき子  | 外来化学療法部  | 863,736     | 補<br>委 文部科学省若手<br>研究(B)継続        |
| 切除不能進行膵癌(局所進行又は転移性)に対するGemcitabine療法 / TS-1療法 / Gemcitabine+TS-1併用療法の第Ⅲ相無作為化比較試験 | 松本 繁己   | 外来化学療法部  | 単価315,000   | 補<br>委 大鵬薬品工業<br>(株)             |
| 前処理装置を搭載した高感度遺伝子多型検出用バイオチップシステムの開発   | 乾 賢一    | 薬剤部      | 未定          | 補<br>委 東レ株式会社                    |
| ヒト薬物トランスポートソームの発現プロファイル構築に基づく薬物動態学的意義の解明   | 乾 賢一    | 薬剤部      | 4,900,000   | 補<br>委 文部科学省特定<br>領域研究新規         |

注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なるものを記入すること。

2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。

3 「補助又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

## 高度の医療技術の開発及び評価の実績

## 1 研究費補助等の実績

| 研究課題名                                   | 研究者氏名           | 所属部署 | 金額(円)      | 補助元又は委託元                                      |
|---|-----------------|------|------------|---|
| メタボリックシンドローム患者の薬物動態変動機構の解明と薬物治療への応用     | 乾 賢一            | 薬剤部  | 16,300,000 | 補 委 文部科学省基盤研究(A)新規                            |
| 薬物トランスポータの膜局在決定因子の同定と極性輸送機構の解明          | 桂 敏也            | 薬剤部  | 1,700,000  | 補 委 文部科学省基盤研究(C)継続                            |
| 電子カルテ2次利用システムに基づくがん薬物療法における副作用データベースの構築 | 池見泰明            | 薬剤部  | 400,000    | 補 委 文部科学省奨励研究新規                               |
| 免疫抑制剤の薬物動態と薬効の速度論的解析と相互作用を考慮した適正使用法の開発  | 福土 将秀           | 薬剤部  | 300,000    | 補 委 文部科学省本学分担者用継続                             |
| 数理的モデルを利用した薬物トランスポータ輸送ネットワークの解明         | 津田真弘(DCI)乾賢一教授  | 薬剤部  | 900,000    | 補 委 文部科学省特別研究員奨励費継続                           |
| 複数の免疫抑制薬併用による効果・副作用の増強と減弱に関する分子機構解明     | 増田 智先           | 薬剤部  | 6,200,000  | 補 委 文部科学省若手研究(A)継続                            |
| 正常並びに病態時における小腸及び腎薬物トランスポータの転写制御機構の解明    | 寺田 智祐           | 薬剤部  | 4,700,000  | 補 委 文部科学省若手研究(A)継続                            |
| ヒト有機カチオントランスポータの変動と薬物動態学的重要性            | 本橋 秀之           | 薬剤部  | 1,300,000  | 補 委 文部科学省若手研究(B)継続                            |
| 肝移植患者におけるミコフェノール酸の適正使用を目指した母集団薬物動態・薬効解析 | 福土 将秀           | 薬剤部  | 1,500,000  | 補 委 文部科学省若手研究(B)継続                            |
| 尿細管セグメントの網羅的遺伝子発現解析によるスプラチン腎症規定因子の同定    | 米澤 淳            | 薬剤部  | 1,800,000  | 補 委 文部科学省若手研究(B)新規                            |
| 腎及び肝薬物トランスポータの発現制御機構の解明と個別化薬物療法への応用     | 小笠原 健(DCI)乾賢一教授 | 薬剤部  | 600,000    | 補 委 特別研究員奨励新規                                 |
| 近位尿細管局所の遺伝子発現プロファイルに基づいた腎病変進展の分子機構解明    | 西原久美子(DCI)乾賢一教授 | 薬剤部  | 600,000    | 補 委 特別研究員奨励新規                                 |
| 薬剤性腎障害の非侵襲性マーカーの探索と臨床的重要性の解明に関する研究      | 増田智先            | 薬剤部  | 66,979,000 | 補 委 厚生労働科学研究費補助金(創薬基盤推進研究事業(創薬バイオマーカー探索研究事業)) |
| 薬物輸送蛋白(トランスポータ)の機能制御機構に関する研究            | 乾 賢一            | 薬剤部  | 2,200,000  | 補 委 大日本住友製薬株式会社                               |
| LCMSによるTDM対象薬剤の代謝物分析法の開発                | 乾 賢一            | 薬剤部  | 4,320,000  | 補 委 株式会社日立ハイテクノロジーズ                           |

注) 1国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを入力すること。

2「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を入力すること。

3「補助又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を入力すること。

小計15

## 高度の医療技術の開発及び評価の実績

## 1 研究費補助等の実績

| 研 究 課 題 名                      | 研究者氏名 | 所属部署  | 金 額 (円)   | 補助元又は委託元          |
|--------------------------------|-------|-------|-----------|-------------------|
| 遠隔診断の技術を用いたがんの病理診断支援のあり方に関する研究 | 真鍋 俊明 | 病理診断部 | 1,800,000 | ④ がん臨床研究事業継続<br>委 |

計256

注) 1国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。  
 2「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。  
 3「補助又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

## 2 論文発表等の実績

| 雑誌名                             | 題名   | 発表者氏名             | 所属部門     |
|---------------------------------|--|-------------------|----------|
| Biol. Blood Marrow Transplant   | Growth and differentiation advantages of CD4+ OX40+ T cells from allogeneic hematopoietic stem cell transplantation recipients.  | 進藤 岳郎             | 血液・腫瘍内科  |
| Am. J. Hematol                  | Potential of dendritic cell immunotherapy for relapse after allogeneic hematopoietic stem cell transplantation, shown by WT1 peptide- and keyhole limpet hemocyanin-pulsed, donor-derived dendritic cell vaccine for acute myeloid leukemia. | 北脇 年雄             | 血液・腫瘍内科  |
| Bone Marrow Transpl.            | Consulting clinic for related family donors in hematopoietic stem cell transplantation.  | 一戸 辰夫             | 血液・腫瘍内科  |
| Haematologica                   | Serum hepcidin level and erythropoietic activity after hematopoietic stem cell transplantation.  | 諫田 淳也             | 血液・腫瘍内科  |
| Nat Struct Mol Biol             | Phosphorylation of APOBEC3G by protein kinase A regulates its interaction with HIV-1 Vif.  | 白川 康太郎            | 血液・腫瘍内科  |
| Proc. Natl. Acad. Sci. USA      | Ozone production by amino acids contributes to killing of bacteria.  | 山下 浩平             | 血液・腫瘍内科  |
| Blood                           | Kpm/Lats2 is linked to chemosensitivity of leukemic cells through the stabilization of p73.  | 河原 真大             | 血液・腫瘍内科  |
| Transfusion                     | Impact of ABO mismatching on the outcomes of allogeneic related and unrelated blood and marrow stem cell transplantations for hematologic malignancies: IPD-based meta-analysis of cohort studies.   | 諫田 淳也             | 血液・腫瘍内科  |
| Eur J Clin Microbiol Infect Dis | Effects on spectrum and susceptibility patterns of isolates causing bloodstream infection by restriction of fluoroquinolone prophylaxis in a hematology-oncology unit.   | 吉岡 聡              | 血液・腫瘍内科  |
| Endocrinology                   | Systemic administration of C-type natriuretic peptide as a novel therapeutic strategy for skeletal dysplasias.   | A. Yasoda, et al. | 内分泌・代謝内科 |

注) 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること（当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る。）

2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合には、主たる発表者の氏名を記入すること。

## 2 論文発表等の実績

| 雑誌名               | 題名  | 発表者氏名               | 所属部門     |
|-------------------|---|---------------------|----------|
| FEBS Lett.        | Adipogenic differentiation of human induced pluripotent stem cells: Comparison with that of human embryonic stem cells.   | D. Taura, et al.    | 内分泌・代謝内科 |
| Diabetologia      | Beneficial effects of leptin on glycaemic and lipid control in a mouse model of type 2 diabetes with increased adiposity induced by streptozotocin and a high-fat diet.   | T. Kusakabe, et al. | 内分泌・代謝内科 |
| Kidney Int.       | Urinary neutrophil gelatinase-associated lipocalin levels reflect damage to glomeruli, proximal tubules, and distal nephrons.   | T. Kuwabara, et al. | 内分泌・代謝内科 |
| Neurosci. Lett.   | Orexins increase mRNA expressions of neurotrophin-3 in rat primary cortical neuron cultures.  | N. Yamada, et al.   | 内分泌・代謝内科 |
| Peptides          | Orexin decreases mRNA expressions of NMDA and AMPA receptor subunits in rat primary neuron cultures.  | N. Yamada, et al.   | 内分泌・代謝内科 |
| Endocrinology     | The role of mineralocorticoid receptor expression in brain remodeling after cerebral ischemia.  | N. Oyamada, et al.  | 内分泌・代謝内科 |
| Kidney Int.       | Adrenomedullin inhibits connective tissue growth factor expression, extracellular signal-regulated kinase activation and renal fibrosis.                                  | K. Mori, et al.     | 内分泌・代謝内科 |
| Endocrinology     | Efficacy of ghrelin as a therapeutic approach for age-related physiological changes.  | H. Ariyasu, et al.  | 内分泌・代謝内科 |
| Circulation       | Long-term outcomes of coronary-artery bypass graft surgery versus percutaneous coronary intervention for multivessel coronary artery disease in the bare-metal stent era. | 木村 剛                | 循環器内科    |
| J Am Coll Cardiol | A novel SCN5A gain-of-function mutation M1875T associated with familial atrial fibrillation.  | 牧山 武                | 循環器内科    |

注) 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること（当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る。）

2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合には、主たる発表者の氏名を記入すること。

小計10

## 2 論文発表等の実績

| 雑誌名                            | 題名   | 発表者氏名 | 所属部門  |
|--------------------------------|--|-------|-------|
| Circulation                    | Antiplatelet Therapy and Stent Thrombosis After Sirolimus-eluting Stent Implantation.  | 木村 剛  | 循環器内科 |
| IJCA2009                       | Sudden cardiac death after PCI and CABG in the bare-metal stent era: Incidence, prevalence, and predictors.  | 西山 慶  | 循環器内科 |
| IJCA.2009                      | Chronic Obstructive Pulmonary Disease—an Independent Risk Factor for Long-term Cardiac and Cardiovascular Mortality in Patients with Ischemic Heart Disease. | 西山 慶  | 循環器内科 |
| The Annals of Thoracic Surgery | Temporal Pattern of Strokes after On-Pump and Off-Pump Coronary Artery Bypass Graft Surgery.   | 西山 慶  | 循環器内科 |
| Circ.J.2009                    | The Impact of CYP2C19 Polymorphisms on the Antiplatelet Effect of Clopidogrel in an Actual Clinical Setting in Japan.  | 陣内 俊和 | 循環器内科 |
| Gastroenterology               | Small intestine Peyer's patches are major induction sites of the Helicobacter-induced host immune responses.   | 渡部 則彦 | 消化器内科 |
| Science                        | Generation of pluripotent stem cells from adult mouse liver and stomach cells.   | 青井 貴之 | 消化器内科 |
| Dis Colon Rectum               | Therapeutic efficacy of infliximab on patients with short duration of Crohn's disease: A Japanese multicenter survey.  | 千葉 勉  | 消化器内科 |
| Hepatology                     | Activation-induced cytidine deaminase links bile duct inflammation to human cholangiocarcinoma.  | 丸澤 宏之 | 消化器内科 |
| Intern Med                     | The effect of medical treatment on patients with fistulizing Crohn's disease: our experience with a retrospective study.                                     | 宇座 徳光 | 消化器内科 |

注) 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること（当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る。）

2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合には、主たる発表者の氏名を記入すること。

小計10

## 2 論文発表等の実績

| 雑誌名                     | 題名   | 発表者氏名 | 所属部門  |
|-------------------------|--|-------|-------|
| Carcinogenesis          | REG I $\alpha$ Protein Mediates an Anti-apoptotic Effect of STAT3 Signaling in Gastric Cancer Cells.                       | 千葉 勉  | 消化器内科 |
| J Gastroenterol Hepatol | Asia-pacific consensus guidelines on gastric cancer prevention.  | 千葉 勉  | 消化器内科 |
| Eur J Endocrinology     | Repeated administration of ghrelin to patients with functional dyspepsia: its effects on appetite and food intake          | 千葉 勉  | 消化器内科 |
| Hepatol Res             | Molecular mechanisms of portal vein tolerance.   | 渡邊 智裕 | 消化器内科 |
| Oncogene                | Coiled-coil domain containing 85B suppresses the $\beta$ -catenin activity in a p53-dependent manner.                      | 千葉 勉  | 消化器内科 |
| Gastroenterology        | Fatal autoimmune hepatitis induced by concurrent loss of naturally arising regulatory T cells and PD-1-mediated signaling. | 渡部 則彦 | 消化器内科 |
| Gastroenterology        | Activation-induced cytidine deaminase links between inflammation to colitis-associated colorectal cancers.                 | 丸澤 宏之 | 消化器内科 |
| Int J Cancer            | Organ-specific profiles of genetic changes in cancers caused by activation-induced cytidine deaminase expression.          | 丸澤 宏之 | 消化器内科 |
| Oncogene                | Parkin as a tumor suppressor gene for hepatocellular carcinoma.  | 丸澤 宏之 | 消化器内科 |
| Inflamm Bowel Dis       | Importance of diagnosis of concomitant cytomegalovirus infection in patients with intestinal Behcet's disease.             | 仲瀬 裕志 | 消化器内科 |

注) 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを入力すること(当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る。)

2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合には、主たる発表者の氏名を記入すること。

小計10

## 2 論文発表等の実績

| 雑誌名                            | 題 名   | 発表者氏名 | 所属部門  |
|--------------------------------|---|-------|-------|
| Am J Gastroenterol             | Biliary Complications in Donors for Living-Donor Liver Transplantation.   | 千葉 勉  | 消化器内科 |
| Aliment Pharmacol Therapeutics | Long-term effect of tacrolimus therapy in patients with refractory ulcerative colitis.  | 仲瀬 裕志 | 消化器内科 |
| Dig Dis Sci                    | It is possible to classify non-erosive reflux disease (NERD) patients into endoscopically normal groups and minimal change groups by subjective symptoms and responsiveness to rabeprazole -A report from a study with Japanese Patients. | 千葉 勉  | 消化器内科 |
| Scand J Gastroenterol          | Prevalence of non-steroidal anti-inflammatory drug-induced enteropathy determined by double-balloon endoscopy: a Japanese multicenter study.  | 仲瀬 裕志 | 消化器内科 |
| Am J Gastroenterol             | Are prophylactic antibiotics really ineffective in reducing the risk of pancreatic necrosis?  | 千葉 勉  | 消化器内科 |
| Pancreas                       | Clinical outcome of gemcitabine/S-1 combination therapy for advanced pancreatic cancer.   | 千葉 勉  | 消化器内科 |
| Eur J Gastroenterol Hepatol    | IgG4-related autoimmune pancreatitis involving the colonic mucosa.  | 渡邊 智裕 | 消化器内科 |
| Diabetes                       | Reduction of Ptf1a gene dosage causes pancreatic hypoplasia and diabetes mellitus in mice.  | 千葉 勉  | 消化器内科 |
| Transplantation                | Limited benefit of biochemical response to combination therapy for patients with recurrent hepatitis C after living-donor liver transplantation.  | 上田 佳秀 | 消化器内科 |
| J Gastroenterol Hepatol        | Mechanism for gastric cancer development by Helicobacter pylori infection.  | 千葉 勉  | 消化器内科 |

注) 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること（当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る。）

2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合には、主たる発表者の氏名を記入すること。

小計10

## 2 論文発表等の実績

| 雑誌名                              | 題名   | 発表者氏名 | 所属部門  |
|----------------------------------|--|-------|-------|
| J Pharmaceut<br>Exp Therapeut    | Blockade of CXCR12/CXCR4 axis ameliorates murine experimental colitis.   | 仲瀬 裕志 | 消化器内科 |
| J Gastroenterol<br>Hepatol       | Clinical features of Japanese patients with colonic angiodysplasia.  | 仲瀬 裕志 | 消化器内科 |
| Chemotherapy                     | Safety and efficacy of modified FOLFOX6 for treatment of metastatic or locally advanced colorectal cancer.   | 千葉 勉  | 消化器内科 |
| J Gastroenterol                  | Efficacy and safety of omeprazole in Japanese patients with nonerosive reflux disease.   | 千葉 勉  | 消化器内科 |
| J Gastroenterol                  | The effect of tacrolimus (FK-506) on Japanese patients with refractory Crohn's disease.  | 仲瀬 裕志 | 消化器内科 |
| Clin Exp<br>Immunol              | Human TSLP directly enhances expansion of CD8+ T cells.  | 渡部 則彦 | 消化器内科 |
| J Gastroenterol                  | Systematic review: cytomegalovirus infection in inflammatory bowel disease.  | 仲瀬 裕志 | 消化器内科 |
| Inflam Bowel Dis                 | Possible link Between Ulcerative Colitis and In situ Adenocarcinoma of an Appendiceal Mucolece: Importance of Inflammation in the Appendiceal Orifice Related to UC. | 仲瀬 裕志 | 消化器内科 |
| Hepatol Res                      | Translational research on HGF.   | 千葉 勉  | 消化器内科 |
| Curr Opin<br>Organ<br>Transplant | Helicobacter pylori in solid-organ transplant recipient.   | 上田 佳秀 | 消化器内科 |

注) 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること（当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る。）

2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合には、主たる発表者の氏名を記入すること。

## 2 論文発表等の実績

| 雑誌名                | 題名  | 発表者氏名             | 所属部門         |
|--------------------|---|-------------------|--------------|
| Annals Int Med     | Association between body mass index and diabetes and hepatocellular carcinoma.  | 丸澤 宏之             | 消化器内科        |
| Arthritis Rheum    | Gamma/delta T cells are the predominant source of interleukin-17 in affected joints in collagen-induced arthritis, but not in rheumatoid arthritis. | Ito Y, 他          | 免疫・膠原病<br>内科 |
| J Autoimmun        | Vaccination with autoreactive CD4(+)Th1 clones in lupus-prone MRL/Mp-Fas(Ipr/Ipr)mice   | Fuji T, 他         | 免疫・膠原病<br>内科 |
| Mod Rheumatol      | Lack of association between tyrosine kinase 2 (TYK 2) gene polymorphisms and susceptibility to SLE in a Japanese population.                        | Kyogoku C, 他      | 免疫・膠原病<br>内科 |
| Int Immunol        | Impaired TCR signaling through dysfunction of lipid rafts in sphingomyelin synthase 1 (SMS1)-knockdown T cells                                      | Jin ZX, 他         | 免疫・膠原病<br>内科 |
| Mod Rheumatol      | Aseptic meningitis in mixed connective tissue disease: cytokine and anti-U1RNP antibodies in cerebrospinal fluids from two different cases.         | Fujita Y, 他       | 免疫・膠原病<br>内科 |
| Lancet Oncol       | Long-term outcomes of aromatase inhibition for breast cancer.   | Toi M             | 乳腺外科         |
| Breast Cancer      | Molecular target therapy: basics and clinical application.  | Noguchi S, Toi M. | 乳腺外科         |
| Lab Invest         | The aspartic protease napsin A suppresses tumor growth independent of its catalytic activity.   | Ueno T            | 乳腺外科         |
| Annals of Oncology | Prolonged neutropenia after dose-dense chemotherapy with pegfilgrastim.   | Ishiguro H        | 乳腺外科         |

注) 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること（当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る。）

2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合には、主たる発表者の氏名を記入すること。

## 2 論文発表等の実績

| 雑誌名                            | 題名  | 発表者氏名                    | 所属部門     |
|--------------------------------|---|--------------------------|----------|
| Int J Clin Oncol               | Update of evidence in chemotherapy for breast cancer.   | Yamashiro H              | 乳腺外科     |
| Tissue Engineering: Part A     | Adipogenesis Induced by Human Adipose Tissue-Derived Stem Cells   | Wakako Tsuji             | 乳腺外科     |
| Biomed Pharmacother            | Natural killer activity of peripheral-blood mononuclear cells in breast cancer patients.  | Dewan MZ, Takada M(筆頭2人) | 乳腺外科     |
| Breast Cancer                  | Risk reduction of distant metastasis in hormone-sensitive postmenopausal breast cancer.   | Toi M                    | 乳腺外科     |
| Am J Transplant                | Portal vein complications in pediatric living donor liver transplantation using left-side grafts  | Ueda Mikiko              | 肝胆膵・移植外科 |
| Hepatobiliary Pancreat Dis Int | Assessment of cardiac output in liver transplantation recipients  | Hori Tomohida            | 肝胆膵・移植外科 |
| J Gastroenterol Hepatol        | Optimal systemic hemodynamic stability for successful clinical outcomes after adult living-donor liver transplantation: prospective observational study | Hori Tomohida            | 肝胆膵・移植外科 |
| Pediatr Transplant             | The technical pitfalls of duct-to-duct biliary reconstruction in pediatric living-donor left-lobe liver transplantation: the impact of stent placement  | Sakamoto Seisuke         | 肝胆膵・移植外科 |
| Pediatr Transplant             | Living donor liver transplantation for acute liver failure in infants: the impact of unknown etiology   | Sakamoto Seisuke         | 肝胆膵・移植外科 |
| CliDev Immunol                 | Serial assessment of immune status by circulating CD8 effector T cell frequencies for posttransplant infectious complications                           | Uemoto Shinji            | 肝胆膵・移植外科 |

注) 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主たるものを記入すること（当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る。）

2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合には、主たる発表者の氏名を記入すること。

## 2 論文発表等の実績

| 雑誌名                        | 題名  | 発表者氏名            | 所属部門     |
|----------------------------|---|------------------|----------|
| Pediatr Transplant         | Successful stent placement for hepatic venous outflow obstruction in pediatric living donor liver transplantation, including a case series review | Sakamoto Seisuke | 肝胆膵・移植外科 |
| Clin Transplant            | The impact of meticulous management for hepatic artery thrombosis on long-term outcome after pediatric living donor liver transplantation         | Uchida Y         | 肝胆膵・移植外科 |
| Transplantation            | The presence of Foxp3 expressing T cells within grafts of tolerant human liver transplant recipients  | Li Y             | 肝胆膵・移植外科 |
| Clin Experiment Ophthalmol | Macular polypoidal choroidal vasculopathy with a remote lesion.   | 辻川 明孝            | 眼科       |
| Retina                     | Integrity of foveal photoreceptor layer in central retinal vein occlusion.  | 太田 将文            | 眼科       |
| Am J Ophthalmol            | Prognostic factor analysis in pars plana vitrectomy for retinal detachment attributable to macular hole in high myopia: a multicenter study.      | 中西 秀雄            | 眼科       |
| Br J Ophthalmol            | Lack of inducible nitric oxide synthases attenuates leukocyte-endothelial cell interactions in retinal microcirculation.                          | 岩間 大輔            | 眼科       |
| Am J Ophthalmol            | Lysyl oxidase-like 1 polymorphisms and exfoliation syndrome in the Japanese population.   | 林 寿子             | 眼科       |
| Invest Ophthalmol Vis Sci  | Granulocyte colony-stimulating factor protects retinal photoreceptor cells against light-induced damage.  | 大石 明生            | 眼科       |
| Ophthalmology              | Spectral-domain optical coherence tomography with multiple B-scan averaging for enhanced imaging of retinal diseases.                             | 坂本 篤             | 眼科       |

注) 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを入力すること（当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る。）

2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合には、主たる発表者の氏名を記入すること。

## 2 論文発表等の実績

| 雑誌名                       | 題名  | 発表者氏名   | 所属部門 |
|---------------------------|---|---------|------|
| Obesity                   | Neonatal exposure to leptin augments diet-induced obesity in Leptin-deficient Ob/Ob mice  | 由良 茂夫   | 産婦人科 |
| Reproduction              | Monoamine oxidase A is highly expressed by the human corpus luteum of pregnancy   | 高尾 由美   | 産婦人科 |
| Hum Reprod                | Stress affects uterine receptivity through an ovarian-independent pathway   | 近藤 英治   | 産婦人科 |
| Fertil Steril             | Lactoferrin is associated with a decrease in oocyte depletion in mice receiving cyclophosphamide  | 堀内 由佳   | 産婦人科 |
| Mod Pathol                | Classification using hierarchical clustering of tumor-infiltrating immune cells identifies poor prognostic ovarian cancers with high levels of COX expression | Liu M   | 産婦人科 |
| Cancer Immunol Immunother | Clinical significance of the NKG2D ligands, MICA/B and ULBP2 in ovarian cancer; High expression of ULBP2 is an indicator of poor prognosis                    | Li K    | 産婦人科 |
| 産婦人科の進歩                   | 外陰部に生じたpilonidal sinusの1例   | 浮田 真沙世  | 産婦人科 |
| 産婦人科の進歩                   | 悪性卵巣腫瘍との鑑別診断に苦慮したcotyledonoid dissecting leiomyomaの1例   | 丸山 俊輔   | 産婦人科 |
| J Urol                    | Septins as diagnostic markers for a subset of human asthenozoospermia.  | 杉野 善雄ほか | 泌尿器科 |
| Urology                   | Demethylating agent 5-aza-2'-deoxycytidine enhances susceptibility of bladder transitional cell carcinoma to Cisplatin.                                       | 石ほか     | 泌尿器科 |

注) 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること（当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る。）

2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合には、主たる発表者の氏名を記入すること。

## 2 論文発表等の実績

| 雑誌名                                  | 題名   | 発表者氏名   | 所属部門  |
|--------------------------------------|--|---------|-------|
| Clin Cancer Research                 | Secreted CXCL1 is a potential mediator and marker of the tumor invasion of bladder cancer.   | 川西 博晃ほか | 泌尿器科  |
| Oncogene                             | Cancer-specific enhancement of cisplatin-induced cytotoxicity with triptolide through an interaction of inactivated glycogen synthase kinase-3beta with p53. | 松井 喜之   | 泌尿器科  |
| Acta Oto-Laryngologica               | In situ Tissue Engineering of Canine Skull with Guided Bone Regeneration.  | 梅田 裕生   | 耳鼻咽喉科 |
| Ann Otol Rhinol Laryngol.            | Endoscopic KTP laser photocoagulation therapy for pharyngolaryngeal venous malformations in adults.  | 岸本 曜    | 耳鼻咽喉科 |
| Ann Otol Rhinol Laryngol.            | Effect of hepatocyte growth factor on gene expression of extracellular matrix during wound healing of the injured rat vocal fold.                            | 大野 恒久   | 耳鼻咽喉科 |
| Brain Res.                           | Effect of amplitude modulation of background noise on auditory-evoked magnetic fields.   | 平海 晴一   | 耳鼻咽喉科 |
| Current Drug Therapy                 | Local drug delivery to inner ear for treatment of hearing loss.  | 中川 隆之   | 耳鼻咽喉科 |
| Eur Arch Otorhinolaryngol.           | Phonomicrosurgery for posterior glottic lesions using triangular laryngoscope.   | 平野 滋    | 耳鼻咽喉科 |
| Eur Arch Otorhinolaryngol.           | Efficiency of a Transtympanic Approach to the Round Window Membrane Using a Microendoscope.  | 平海 晴一   | 耳鼻咽喉科 |
| Int J Pediatr Otorhinolaryngol Extra | Nasal chondromesenchymal hamartoma in an adolescent.   | 中川 隆之   | 耳鼻咽喉科 |

注) 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること（当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る。）

2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合には、主たる発表者の氏名を記入すること。

小計10

## 2 論文発表等の実績

| 雑誌名   | 題名   | 発表者氏名 | 所属部門  |
|---|--|-------|-------|
| J Neurosci Res.   | Potential of embryonic stem cell-derived neurons for synapse formation with auditory hair cells.   | 松本 昌宏 | 耳鼻咽喉科 |
| J Neurosci Res.   | Bone marrow-derived cells expressing Iba1 are constitutively present as resident tissue macrophages in the mouse cochlea.                  | 岡野 高之 | 耳鼻咽喉科 |
| Journal of the Association for Research in Otolaryngology | A Mouse Model for Degeneration of the Spiral Ligament  | 嘉田 真平 | 耳鼻咽喉科 |
| Laryngoscope.   | Regeneration of aged vocal fold: first human case treated with fibroblast growth factor.   | 平野 滋  | 耳鼻咽喉科 |
| Laryngoscope.   | Gene Expression of Transforming Growth Factor- $\beta$ 1 and Hepatocyte Growth Factor in Remodeling Phase of Rat Vocal Folds after injury. | 大野 恒久 | 耳鼻咽喉科 |
| Laryngoscope.   | Regeneration of Aged Rat Vocal Folds using Hepatocyte Growth Factor Therapy.   | 大野 恒久 | 耳鼻咽喉科 |
| ORL J Otorhinolaryngol Relat Spec.                        | Surgical invasiveness of cell transplantation into the guinea pig cochlear modiolus.   | 扇田 秀章 | 耳鼻咽喉科 |
| ORL J Otorhinolaryngol Relat Spec.                        | Surgical invasiveness of cell transplantation into the guinea pig cochlear modiolus.   | 扇田 秀章 | 耳鼻咽喉科 |
| Otolaryngol Head Neck Surg.                               | Extracellular Matrix Gene Expression During Wound Healing of the Injured Rat Vocal Fold.   | 大野 恒久 | 耳鼻咽喉科 |
| Otol Jpn.   | マウス前庭および内リンパ囊における骨髄由来細胞の免疫組織学的検討   | 岡野 高之 | 耳鼻咽喉科 |

注) 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること（当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る。）

2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合には、主たる発表者の氏名を記入すること。

小計10

## 2 論文発表等の実績

| 雑誌名                                    | 題名  | 発表者氏名                 | 所属部門  |
|--|---|-----------------------|-------|
| 頭頸部癌.                                  | 当科における高齢者頭頸部扁平上皮癌症例.  | 田村 芳寛                 | 耳鼻咽喉科 |
| 医学のあゆみ.                                | 【感覚器の再生医療】内耳有毛細胞再生による感音難聴治療 幹細胞移植と発生関連因子操作による治療   | 山本 典生                 | 耳鼻咽喉科 |
| 喉頭.                                    | 細胞移植による声帯再生のための細胞培養液の検討   | 金丸 眞一                 | 耳鼻咽喉科 |
| 耳鼻臨床.                                  | 外側側頭骨切除後の後耳介皮弁による再建   | 西村 幸司                 | 耳鼻咽喉科 |
| 耳鼻臨床.                                  | Bulkyな下咽頭血管腫に対するKTPレーザー治療   | 平野 滋                  | 耳鼻咽喉科 |
| 耳鼻臨床.                                  | 耳鼻咽喉科手術トレーニング.  | 伊藤 壽一                 | 耳鼻咽喉科 |
| 日耳鼻会報.                                 | 内耳疾患の治療をめざして 基礎研究の最前線 薬物の経正円窓投与   | 中川 隆之                 | 耳鼻咽喉科 |
| J Oral Maxillofac Surg                 | Evaluation of pluripotency in human pulp cells  | N. Koyama             | 口腔外科  |
| Current topics in biochemical research | Terminal differentiation of chondrocytes is stimulated by thyroxine                       | Y. Okubo              | 口腔外科  |
| Biochem Biophys Res Commun             | Enhanced BMP signaling results in supernumerary tooth formation in USAG-1 deficient mouse | A. Murashima-Suginami | 口腔外科  |

注) 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること（当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る。）

2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合には、主たる発表者の氏名を記入すること。

小計10

## 2 論文発表等の実績

| 雑誌名                  | 題名  | 発表者氏名       | 所属部門   |
|----------------------|---|-------------|--------|
| Invest Radiol        | Susceptibility-Weighted Imaging at 3 Tesla Delineates the Optic Radiation.  | Miki Y      | 放射線診断科 |
| J Magn Reson Imaging | Visualization of the lenticulostriate artery with flow-sensitive black-blood acquisition in comparison with time-of-flight MR angiography.      | Okada T     | 放射線診断科 |
| Clin Nucl Med        | F-18 fluorodeoxyglucose uptake in a solid pseudopapillary tumor of the pancreas mimicking malignancy.   | Nakamoto Y  | 放射線診断科 |
| Mol Imaging Biol     | Clinical value of image fusion from MR and PET in patients with head and neck cancer.   | Nakamoto Y  | 放射線診断科 |
| Invest Radiol        | Microbleeds in moyamoya disease: susceptibility-weighted imaging versus T2*-weighted imaging at 3 Tesla.  | Miki Y      | 放射線診断科 |
| Eur J Radiol         | Whole-heart coronary magnetic resonance angiography with parallel imaging: Comparison of acceleration in one-dimension vs. two-dimensions.      | Okada T     | 放射線診断科 |
| Magn Reson Imaging   | Cerebral infarction associated with moyamoya disease: histogram-based quantitative analysis of diffusion tensor imaging -- a preliminary study. | Miki Y      | 放射線診断科 |
| Mol Imaging Biol     | Software-based fusion of PET and CT images for suspected recurrent lung cancer.   | Nakamoto Y  | 放射線診断科 |
| J Surg Res           | In vivo culturing of a bilayered dermal substitute with adipo-stromal Cells.  | Morimoto, N | 形成外科   |
| Cell Transplantation | Green tea polyphenols affect skin preservation in rats and improve the rate of skin grafts.   | Kawazoe, T  | 形成外科   |

注) 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを入力すること（当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る。）

2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合には、主たる発表者の氏名を記入すること。

小計10

## 2 論文発表等の実績

| 雑誌名                                       | 題名  | 発表者氏名       | 所属部門      |
|---|---|-------------|-----------|
| Tissue Eng                                | Preparation of collagen/gelatin sponge scaffold for sustained release of bFGF.  | Takemoto, S | 形成外科      |
| Journal of Atherosclerosis and Thrombosis | Effects of obstructive sleep apnea with intermittent hypoxia on platelet aggregability.   | Chin K,     | 呼吸管理睡眠制御学 |
| Respir Med.                               | Importance of ventilator mode in long-term noninvasive positive pressure ventilation.   | Chin K,     | 呼吸管理睡眠制御学 |
| Sleep                                     | Simple four-variable screening tool for identification of patients with-disordered breathing.                                       | Chin K,     | 呼吸管理睡眠制御学 |
| Thorax                                    | Body mass index in male patients with chronic obstructive pulmonary disease; correlation with low attenuation areas on CT.          | Chin K,     | 呼吸管理睡眠制御学 |
| Surgery Today                             | Prophylactic respiratory management after liver resection with bilevel positive airway pressure ventilation: Report of three cases. | Chin K,     | 呼吸管理睡眠制御学 |
| Respiration                               | Computed Tomography analysis of airway dimensions and lung density in patients with sarcoidosis.                                    | Chin K,     | 呼吸管理睡眠制御学 |
| Sleep Medicine                            | Development of a Japanese version of the Epworth Sleepiness Scale (JESS) based on Item Response Theory.                             | Chin K,     | 呼吸管理睡眠制御学 |
| Chest                                     | Relationship between pulmonary emphysema and osteoporpsis assessed by CT in patients with COPD.                                     | Chin K,     | 呼吸管理睡眠制御学 |
| Respirology                               | Acylated ghrelin level in patients with obstructive sleep apnoea before and after nasal CPAP treatment.                             | Chin K,     | 呼吸管理睡眠制御学 |

注) 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること（当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る。）

2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合には、主たる発表者の氏名を記入すること。

小計10

## 2 論文発表等の実績

| 雑誌名  | 題名   | 発表者氏名                 | 所属部門      |
|--|--|-----------------------|-----------|
| Antioxidants & Redox Signaling                 | Plasma thioredoxin, a novel oxidative stress marker, in patients with obstructive sleep apnea before and after nasal continuous positive airway pressure.  | Chin K                | 呼吸管理睡眠制御学 |
| Sleep  | Sleep-disordered breathing in the usual lifestyle setting as detected with home monitoring in a Japanese male working population.  | Chin K                | 呼吸管理睡眠制御学 |
| J Infect Chemother                             | Kansai Community Acquired Pneumococcal Pneumonia Study Group. Molecular characteristics of serotype 3 Streptococcus pneumoniae isolates among community-acquired pneumonia patients in Japan.                      | Chin K                | 呼吸管理睡眠制御学 |
| The Journal of Allergy and Clinical Immunology | Transforming growth factor- $\beta$ 1 promotor polymorphism C-509T and pathophysiology of asthma.  | Chin K                | 呼吸管理睡眠制御学 |
| J Infect Chemother                             | Kansai Community Acquired Pneumococcal Pneumonia Study Group. Molecular characteristics of serotype 3 Streptococcus pneumoniae isolates among community-acquired pneumonia patients in Japan.                      | Chin K                | 呼吸管理睡眠制御学 |
| J Infect Chemother                             | Delayed insertion of blood culture bottles into automated continuously monitoring blood culture systems increases the time from blood sample collection to the detection of microorganisms in bacteremic patients. | 共著 長尾美紀、高倉俊二、飯沼由嗣、一山智 | 検査部・感染制御部 |
| J Clin Microbiol.                              | Necrotizing fasciitis caused by Haemophilus influenzae type b in an elderly patient.   | 共著 長尾美紀、高倉俊二、飯沼由嗣、一山智 | 検査部・感染制御部 |
| Int J Infect Dis.                              | Surgical site infection due to Mycobacterium peregrinum: a case report and literature review.  | 長尾美紀、共著 高倉俊二、飯沼由嗣、一山智 | 検査部・感染制御部 |
| J Infect Chemother.                            | Molecular characteristics of serotype 3 Streptococcus pneumoniae isolates among community-acquired pneumonia patients in Japan.  | 共著 高倉俊二、飯沼由嗣、一山智      | 検査部・感染制御部 |
| J Med Genet.                                   | Identifying pathogenic genetic background of simplex or multiplex retinitis pigmentosa patients: a large scale mutation screening study.   | 共著 高倉俊二、一山智           | 検査部・感染制御部 |

注) 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること（当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る。）

2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合には、主たる発表者の氏名を記入すること。

小計10

## 2 論文発表等の実績

| 雑誌名                        | 題名  | 発表者氏名       | 所属部門      |
|----------------------------|---|-------------|-----------|
| Int J Med Microbiol.       | Comparison of Candida albicans strain types among isolates from three countries.  | 共著 高倉俊二、一山智 | 検査部・感染制御部 |
| Am J Respir Crit Care Med. | Serodiagnosis of Mycobacterium avium-complex pulmonary disease using an enzyme immunoassay kit.   | 共著 高倉俊二、一山智 | 検査部・感染制御部 |
| 日本外科感染症学会雑誌                | バンコマイシンの使用を再考する   | 高倉 俊二       | 検査部・感染制御部 |
| J Magn Reson Imaging       | Diffusion tensor imaging of kidneys with respiratory triggering: optimization of parameters to demonstrate anisotropic structures on fraction anisotropy maps.  | Kataoka M   | 留学中       |
| J Magn Reson Imaging       | Non-contrast-enhanced MR angiography for selective visualization of the hepatic vein and inferior vena cava with true steady-state free-precession sequence and time-spatial labeling inversion pulses: preliminary results.        | Isoda H     | 放射線部      |
| J Magn Reson Imaging       | Functional MR imaging of the uterus.  | Nakai A     | 放射線診断科    |
| Eur J Radiol               | High spatial resolution 3D MR cholangiography with high sampling efficiency technique (SPACE): Comparison of 3T vs. 1.5T.   | Isoda H     | 放射線部      |
| J Magn Reson Imaging       | Evaluation of motion correction effect and image quality with the periodically rotated overlapping parallel lines with enhanced reconstruction (PROPELLER) (BLADE) and parallel imaging acquisition technique in the upper abdomen. | Hirokawa Y  | 放射線診断科    |
| AJR Am J Roentgenol        | MRI artifact reduction and quality improvement in the upper abdomen with PROPELLER and prospective acquisition correction (PACE) technique.   | Hirokawa Y  | 放射線診断科    |
| J Magn Reson Imaging       | High-spatial-resolution three-dimensional MR cholangiography using a high-sampling-efficiency technique (SPACE) at 3T: comparison with the conventional constant flip angle sequence in healthy volunteers.                         | Isoda H     | 放射線部      |

注) 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること（当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る。）

2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合には、主たる発表者の氏名を記入すること。

小計10

## 2 論文発表等の実績

| 雑誌名                            | 題 名  | 発表者氏名           | 所属部門    |
|--------------------------------|--|-----------------|---------|
| Clin Imaging                   | Contrast behavior and image quality of magnetic resonance cholangiopancreatography imaging using variable echo times at 3.0 T.                         | Isoda H         | 放射線部    |
| Liver Transplant               | Effects of double-filtration plasmapheresis combined with interferon plus ribavirin for recurrent hepatitis C after living donor liver transplantation | Takada Yasutugu | 臓器移植医療部 |
| Transplantation                | Limited benefit of biochemical response to combination therapy for patients with recurrent hepatitis C after living-donor liver transplantation        | Ueda Yoshihide  | 臓器移植医療部 |
| Eur J Endocrinol               | Repeated administration of ghrelin to patients with functional dyspepsia: its effects on food intake and appetite.                                     | 横出 正之           | 探索医療臨床部 |
| Arterioscler Thromb Vasc Biol. | Inhibition of CCR2 ameliorates insulin resistance and hepatic steatosis in db/db mice.   | 横出 正之           | 探索医療臨床部 |
| Atherosclerosis                | Mulberry leaf ameliorates the expression profile of adipocytokines by inhibiting oxidative stress in white adipose tissue in db/db mice.               | 横出 正之           | 探索医療臨床部 |
| Biochem Pharmacol              | Transcellular transport of organic cations in double-transfected MDCK cells expressing human organic cation transporters hOCT1/hMATE1 and hOCT2/hMATE1 | Sato T et al    | 薬剤部     |
| Am J Physiol Renal Physiol     | Kidney-specific expression of human organic cation transporter 2 (OCT2/SLC22A2) is regulated by DNA methylation  | 乾 賢一            | 薬剤部     |
| Am J Physiol Renal Physiol     | Adaptive responses of renal organic anion transporter 3 (OAT3) during cholestasis  | 乾 賢一            | 薬剤部     |
| Pharmacogenet Genomics         | Impact of MDR1 and CYP3A5 on the oral clearance of tacrolimus and tacrolimus-related renal dysfunction in adult living-donor liver transplant patients | 乾 賢一            | 薬剤部     |

注) 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること（当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る。）

2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合には、主たる発表者の氏名を記入すること。

小計10

## 2 論文発表等の実績

| 雑誌名   | 題 名  | 発表者氏名 | 所属部門 |
|---|--|-------|------|
| J Pharmacol<br>Exp Ther                       | Relation between mRNA expression level of multidrug resistance 1/ABCB1 in blood cells and required level of tacrolimus in pediatric living-donor liver transplantation | 乾 賢一  | 薬剤部  |
| Am J Physiol<br>Gastrointest<br>Liver Physiol | Regulatory mechanism governing the diurnal rhythm of intestinal H <sup>+</sup> /peptide cotransporter 1 (PEPT1)  | 乾 賢一  | 薬剤部  |
| Am J Physiol<br>Gastrointest<br>Liver Physiol | Regulation of basal core promoter activity of human organic cation transporter 1 (OCT1/SLC22A1)  | 乾 賢一  | 薬剤部  |
| Am J Physiol<br>Cell Physiol                  | Identification and functional characterization of a novel human and rat riboflavin transporter, RFT1   | 乾 賢一  | 薬剤部  |
| Pharm Res                                     | MDR1 Haplotypes Conferring an Increased Expression of Intestinal CYP3A4 Rather than MDR1 in Female Living-Donor Liver Transplant Patients                              | 乾 賢一  | 薬剤部  |

計185

注) 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること（当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る。）

2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合には、主たる発表者の氏名を記入すること。

(様式第12)

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法

|         |  |
|---------|--|
| 管理責任者氏名 | 病院長 中村 孝志  |
| 管理担当者氏名 | 薬剤部長 乾 賢一, 総務課長 吉原 正啓<br>医務課長 吉野 孝行, 医療安全管理室長 長尾 能雅<br>医療サービス課長 鹿島 功介, 医療情報部長 吉原 博幸<br>感染制御部長 一山 智, 医療器材部長 坂井 義治 |

|   |  | 保管場所                               | 分類方法   |  |
|---|--|------------------------------------|--|--|
| 診療に関する諸記録                               | 各科診療日誌, 手術記録, 看護記録, 検査所見記録, 紹介状, 退院した患者に係る入院期間中の診療経過の要約及び入院診療計画書 | 各診療科及び医務課                          | ・平成19年9月より一部の診療科を除いて入院カルテは廃止し、入院中に発生した紙媒体の診療記録等データについては外来カルテの中に入院関係分として設けた区分の所に時系列に綴じ込んだ上で、1患者1カルテとして病歴管理室で保管。 |  |
|   | エックス線写真  | 医務課                                | ・外来カルテは、1患者1カルテであり、病歴管理室で保管。   |  |
|   | 処方せん   | 薬剤部                                | ・電子化されたカルテ(入院及び外来カルテ)は、1患者1カルテであり、電算機室で保管。   |  |
|   | 病院日誌   | 総務課                                |  |  |
| 病院の管理及び運営に関する諸記録                        | 従業者数を明らかにする帳簿  | 総務課                                |  |  |
|   | 高度の医療の提供の実績  | 医務課                                |  |  |
|   | 高度の医療技術の開発及び評価の実績  | 医務課                                |  |  |
|   | 高度の医療の研修の実績  | 総務課                                |  |  |
|   | 閲覧実績   | 総務課                                |  |  |
|   | 紹介患者に対する医療提供の実績  | 医務課                                |  |  |
|   | 入院患者数, 外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿                                       | 医務課<br>薬剤部                         |  |  |
|   | 規則第9条の23及び第1条11各号に掲げる体制の確保の状況                                    | 専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況              | 総務課  |  |
|   |  | 専任の院内感染対策を行う者の配置状況                 | 総務課  |  |
|   |  | 医療に係る安全管理を行う部門の設置状況                | 総務課  |  |
|   |  | 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況 | 医療サービス課  |  |
|   |  | 医療に係る安全管理のための指針の整備状況               | 医療安全管理室  |  |
|   |  | 医療に係る安全管理のための委員会の開催状況              | 医療安全管理室  |  |
| 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況                  |  | 医療安全管理室                            |  |  |
| 医療機関内の事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況 | 医療安全管理室  |                                    |  |  |

(注) 「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。

(様式第12)

|   |                       | 保管場所  | 分類方法  |
|---|-----------------------|---|-------|
| 病院の管理及び運営に関する諸記録  | 規則第1条の11各号に掲げる体制確保の状況 | 院内感染のための指針の策定状況                                       | 感染制御部 |
|   |                       | 院内感染対策のための委員会の開催状況                                    | 感染制御部 |
|   |                       | 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況                              | 感染制御部 |
|   |                       | 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況           | 感染制御部 |
|   |                       | 医薬品の使用に係る安全な管理のための責任者の配置状況                            | 薬剤部   |
|   |                       | 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況                            | 薬剤部   |
|   |                       | 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況            | 薬剤部   |
|   |                       | 医薬品の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況 | 薬剤部   |
|   |                       | 医療機器の安全使用のための責任者の配置状況                                 | 医療器材部 |
|   |                       | 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況                           | 医療器材部 |
|   |                       | 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況                         | 医療器材部 |
| 医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況 | 医療器材部                 |   |       |

(注) 「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。

(様式第 13)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法及び紹介患者に対する医療提供の実績

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

|             |            |
|-------------|------------|
| 閲覧責任者氏名     | 事務部長 松ヶ迫和峰 |
| 閲覧担当者氏名     | 総務課長 吉原正啓  |
| 閲覧の求めに応じる場所 | 総務課内       |

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

|           |        |      |
|-----------|--------|------|
| 前年度の総閲覧件数 | 延      | 0件   |
| 閲覧者別      | 医師     | 延 0件 |
|           | 歯科医師   | 延 0件 |
|           | 国      | 延 0件 |
|           | 地方公共団体 | 延 0件 |

○紹介患者に対する医療提供の実績

|      |                       |      |                      |
|------|-----------------------|------|----------------------|
| 紹介率  | 72.4%                 | 算定期間 | 平成20年4月1日～平成21年3月31日 |
| 算出根拠 | A：紹介患者の数              |      | 13,664人              |
|      | B：他の病院又は診療所に紹介した患者の数  |      | 11,899人              |
|      | C：救急用自動車によって搬入された患者の数 |      | 2,488人               |
|      | D：初診の患者の数             |      | 26,842人              |

- (注) 1 「紹介率」欄は、A、B、Cの和をBとDの和で除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。  
2 A、B、C、Dは、それぞれの延数を記入すること。

(様式第 13-2)

規則第 9 条の 2 3 及び第 1 条の 1 1 各号に掲げる体制の確保状況

|   |               |
|---|---------------|
| ① 専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況   | 有 ( 2 名 ) ・ 無 |
| ② 専任の院内感染対策を行う者の配置状況  | 有 ( 5 名 ) ・ 無 |
| ③ 医療に係る安全管理を行う部門の設置状況   | 有 ・ 無         |
| <ul style="list-style-type: none"><li>・ 所属職員： 専任 ( 2 ) 名 兼任 ( 4 ) 名</li><li>・ 活動の主な内容：<ol style="list-style-type: none"><li>1. 医療事故発生時の初動対応と事例調査</li><li>2. 各種安全管理マニュアル・指針等の整備と運用状況のモニター、改訂作業</li><li>3. 各部門からのインシデント・アクシデントレポート収集と、サーベイランス・分析・対策立案</li><li>4. 医療安全に関する部門連携・委員会活動</li><li>5. 職員、学生などへの医療安全教育</li><li>6. 医療安全における大学間・病院間・地域間連携</li></ol></li></ul>             |               |
| ④ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況  | 有 ・ 無         |
| ⑤ 医療に係る安全管理のための指針の整備状況  | 有 ・ 無         |
| <ul style="list-style-type: none"><li>・ 指針の主な内容：<ol style="list-style-type: none"><li>1. 病院の基本理念</li><li>2. 院内の責任体制及び管理体制の明確化</li><li>3. 安全管理のための各種委員会の設置及びリスクマネージャーの配置並びに医療安全管理室の設置</li><li>4. 報告等に基づく医療に係る安全確保を目的とした改善方策</li><li>5. 医療事故発生時における対応について</li><li>6. 安全管理に係る研修の実施</li><li>7. マニュアル・対応指針等の作成</li><li>8. 情報の共有と開示について</li><li>9. 患者からの相談等への対応</li></ol></li></ul> |               |
| ⑥ 医療に係る安全管理のための委員会の開催状況   | 年 1 1 回       |
| <ul style="list-style-type: none"><li>・ 活動の主な内容：<ol style="list-style-type: none"><li>1. 医療事故を防止する方策の検討及び実施</li><li>2. 医療事故防止マニュアル等の策定・改善・普及等</li><li>3. 発生した医療事故又は発生する危険のあった医療事故等に関する情報収集及び分析並びに防止のための改善策の検討・実施</li><li>4. 医療事故防止のための研修・講習・教育等の実施</li><li>5. 重要事例の対応決定</li><li>6. その他医療事故の防止に関する全般事項</li></ol></li></ul>   |               |

- ・ 研修の主な内容：  
医療事故防止に係る職員の意識改革と安全管理意識の高揚並びに医療資質の向上を図るため、次のとおり教育・研修・講演会を開催した。

●全職種対象

(医療安全管理に関する講演会)

日 時：平成20年5月14日(水)

講演者：社団法人 日本航空機操縦士協会 常務理事ANA査察機長 根本裕一氏

演 題：「“そら”の知を医療へー考える機長を育てるー」

参加者：739名(医師、薬剤師、看護師、技師、事務、その他)

(医療安全管理に関する講演会：医薬品安全使用研修会)

日 時：平成20年6月9日(月)

講演者：薬剤部 寺田智祐 副薬剤部長、薬剤部 深津祥央 薬品情報掛長、

医療安全管理室 長尾能雅 室長

演 題：『抗がん剤注射薬オーダーリングから払い出しに至るまでの流れと注意点について』、『薬剤オーダーのチェックシステムとその注意点について』、『高濃度カリウム製剤使用法について』

参加者：309名(医師、薬剤師、看護師、技師、事務、その他)

(医療安全管理に関する講演会)

日 時：平成20年8月29日(金)

講演者：武蔵野赤十字病院医療安全推進室長 呼吸器外科部長 矢野真氏

演 題：「医療安全への終わりなき挑戦～キーワードは全員参加～」

参加者：416名(医師、薬剤師、看護師、技師、事務、その他)

(医療安全管理に関するビデオ上映会) ①②

日 時：平成20年9月25日(木)

参加者：73名(医師、薬剤師、看護師、技師、事務、その他)

(医療安全管理に関する講演会)

日 時：平成20年10月8日(水)

講演者：自治医科大学 麻酔科学・集中治療医学講座 主任教授 瀬尾憲正氏

演 題：「周術期肺血栓塞栓の予防対策」

参加者：430名(医師、薬剤師、看護師、技師、事務、その他)

(医療安全管理に関するビデオ上映会) ③④

日 時：平成20年10月20日(月)

参加者：60名(医師、薬剤師、看護師、技師、事務、その他)

(院内事例報告会)

日 時：平成20年11月13日(木)

講演者：血液・腫瘍内科、北7階病棟、医療安全管理室

演 題：「患者誤認・取り違い事故防止のために」

参加者：357名(医師、薬剤師、看護師、技師、事務、その他)

(医療安全管理に関するビデオ上映会) ⑤⑥

日 時：平成20年11月18日(火)

参加者：49名(医師、薬剤師、看護師、技師、事務、その他)

(医療安全管理に関する講演会)

日 時：平成20年12月2日(火)

講演者：京都府立医科大学附属病院 臨床検査部部长 藤田直久氏

演 題：「感染対策～基本中の基本とピットフォール」

参加者：270名(医師、薬剤師、看護師、技師、事務、その他)

(医療安全管理に関するビデオ上映会) ⑦⑧

日 時：平成 20 年 12 月 24 日 (水)

参加者：105 名 (医師、薬剤師、看護師、技師、事務、その他)

(医療安全管理に関するビデオ上映会) ⑨⑩

日 時：平成 21 年 1 月 26 日 (月)

参加者：50 名 (医師、薬剤師、看護師、技師、事務、その他)

(医療安全管理に関する説明会)

日 時：平成 21 年 2 月 9 日 (月)

講演者：インスリン標準化WGメンバー

演 題：「インスリン安全管理マニュアル第 2 版についての説明会」

参加者：420 名 (医師、薬剤師、看護師、技師、事務、その他)

(院内報告会)

日 時：平成 21 年 3 月 30 日 (月)

講演者：院内転倒・転落事故防止委員会メンバー

演 題：「院内転倒・転落事故防止委員会この一年の取り組み」

参加者：256 名 (医師、薬剤師、看護師、技師、事務、その他)

### ●医師対象

(医療安全管理に関する研修会) \*研修医内定者オリエンテーション

日 時：平成 20 年 4 月 2 日 (水)

講 師：医療安全管理室 長尾能雅 室長

参加者：104 名 (研修医内定者)

(医療安全管理に関する研修会) \*新規採用検査技師安全講習

日 時：平成 20 年 4 月 11 日 (金)

講 師：医療安全管理室 長尾能雅 室長

参加者：6 名 (新規採用検査技師)

(医療安全管理に関する研修会) \*新規採用医師安全研修会①

日 時：平成 20 年 4 月 22 日 (火)

講 師：医療安全管理室 長尾能雅 室長

参加者：37 名 (新規採用医師)

(医療安全管理に関する研修会) \*新規採用医師安全研修会②

日 時：平成 20 年 4 月 24 日 (木)

講 師：医療安全管理室 長尾能雅 室長

参加者：33 名 (新規採用医師)

(医療安全管理に関する研修会) \*薬剤部新人講習会

日 時：平成 20 年 5 月 9 日 (金)

講 師：医療安全管理室 長尾能雅 室長

参加者：12 名 (薬剤師)

(医療安全管理に関する研修会) \*中途採用医師安全管理研修

日 時：平成 21 年 2 月 3 日 (火)

講 師：医療安全管理室 長尾能雅 室長

参加者：25 名 (医師)

### ●看護師対象

(医療安全管理に関する研修会) \*看護部新規採用者オリエンテーション

日 時：平成19年4月3日 (木)

講 師：医療安全管理室 足立由起 師長

演 題：「安全な医療を提供するために」

参加者：156名 (新規採用看護師)

(医療安全管理に関する研修会) \*平成20年度 中途採用者研修 ①

日 時：平成20年4月16日(水)

講 師：医療安全管理室 足立由起 師長

参加者：1名(中途採用看護師)

(医療安全管理に関する研修会) \*平成20年度 中途採用者研修 ②

日 時：平成20年5月1日(木)

講 師：医療安全管理室 足立由起 師長

参加者：4名(中途採用看護師)

(医療安全管理に関する研修会) \*輸液管理研修①

日 時：平成20年6月11日(水)

講 師：医療安全管理室 足立由起 師長

演 題：「輸液管理・血液確保のリスクマネジメント」

参加者：77名(看護師)

(医療安全管理に関する研修会) \*平成20年度 中途採用者研修 ③

日 時：平成20年7月1日(火)

講 師：医療安全管理室 足立由起 師長

参加者：3名(中途採用看護師)

(医療安全管理に関する研修会) \*平成20年度 中途採用者研修 ④

日 時：平成20年8月1日(金)

講 師：医療安全管理室 足立由起 師長

参加者：4名(中途採用看護師)

(医療安全管理に関する研修会) \*輸液管理研修②

日 時：平成20年8月15日(金)

講 師：医療安全管理室 足立由起 師長

演 題：「輸液管理・血液確保のリスクマネジメント」

参加者：22名(看護師)

(医療安全管理に関する研修会) \*平成20年度 中途採用者研修 ⑤

日 時：平成20年9月1日(月)

講 師：医療安全管理室 足立由起 師長

参加者：4名(中途採用看護師)

(医療安全管理に関する研修会) \*輸液管理研修③

日 時：平成20年9月26日(金)

講 師：医療安全管理室 足立由起 師長

演 題：「輸液管理・血液確保のリスクマネジメント」

参加者：46名(看護師)

(医療安全管理に関する研修会) \*輸液管理研修④

日 時：平成20年11月10日(月)

講 師：医療安全管理室 足立由起 師長

演 題：「輸液管理・血液確保のリスクマネジメント」

参加者：46名(看護師)

(医療安全管理に関する研修会) \*平成20年度 中途採用者研修 ⑥

日 時：平成20年12月1日(月)

講 師：医療安全管理室 足立由起 師長

参加者：1名(中途採用看護師)

(医療安全管理に関する研修会) \*リスクマネジメント研修

日 時：平成20年12月10日(水)

講 師：医療安全管理室 足立由起 師長

参加者：31名(看護師)

(医療安全管理に関する研修会) \*平成20年度 中途採用者研修 ⑦

日 時：平成21年1月5日(月)

講 師：医療安全管理室 足立由起 師長

参加者： 1名 (中途採用看護師)

(医療安全管理に関する研修会) \*看護補助者研修 ①

日 時：平成21年2月4日(水)

講 師：医療安全管理室 足立由起 師長

参加者： 26名 (看護補助者)

(医療安全管理に関する研修会) \*看護補助者研修 ②

日 時：平成21年2月5日(木)

講 師：医療安全管理室 足立由起 師長

参加者： 26名 (看護補助者)

(医療安全管理に関する研修会) \*平成20年度 中途採用者研修 ⑧

日 時：平成21年3月2日(月)

講 師：医療安全管理室 足立由起 師長

参加者： 2名 (看護師)

(医療安全管理に関する研修会) \*輸液管理研修 ⑤

日 時：平成21年3月4日 (水)

講 師：医療安全管理室 足立由起 師長

演 題：「輸液管理・血液確保のリスクマネジメント」

参加者：15名 (看護師)

(医療安全管理に関する研修会) \*輸液管理研修 ⑥

日 時：平成21年3月24日 (火)

講 師：医療安全管理室 足立由起 師長

演 題：「輸液管理・血液確保のリスクマネジメント」

参加者：23名 (看護師)

⑧ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況

- ・ 医療機関内における事故報告等の整備 ( 有・無 )
- ・ その他の改善のための方策の主な内容：
  1. 各種安全管理マニュアル・指針等の整備と運用状況のモニター、改訂作業
  2. 安全に関する部門連携・委員会活動
    - ・ 医療安全管理委員会の定期開催
    - ・ リスクマネージャー会議の定期開催
    - ・ 薬剤関連インシデント検討会の定期開催
    - ・ 安全管理室への研修医ローテーションの定期開催
    - ・ 各診療科 RM とのインシデント検討会の定期開催
    - ・ 院内転倒転落事故防止委員会の定期開催
  3. 職員への安全教育
    - ・ 講演会・講習会・ビデオ上映・院内事例報告会
    - ・ インシデントニュースの配信

院内感染対策のための体制の確保に係る措置

|  |        |
|--|--------|
| ① 院内感染対策のための指針の策定状況  | 有・無    |
| <p>・ 指針の主な内容：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 院内対策に関する基本方針</li> <li>・ 感染対策組織の概要</li> <li>・ 関連委員会及び会議の開催</li> <li>・ 感染制御部（ICT）の業務内容</li> <li>・ 感染アウトブレイク（集団発生）時の対応</li> </ul>  |        |
| ② 院内感染対策のための委員会の開催状況   | 年 40 回 |
| <p>・ 活動の主な内容：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 感染予防対策委員会 1回/月</li> <li>・ 感染制御部（ICT）会議 2回/月</li> <li>・ 感染対策業務会議 4回/年</li> </ul>   |        |
| ③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況   | 年 20 回 |
| <p>・ 研修の主な内容：</p> <p>平成20年3月27日；職員講習会（清掃業者対象）<br/>「清掃時における感染対策について」<br/>清掃時に必要な感染管理を理解する。<br/>新規採用清掃業者職員 97名</p> <p>平成20年4月3日・4月4日・5月26日；職員講習会（新規採用看護師対象）<br/>新規採用看護師に必要な感染対策の基本的知識・技術を習得する。<br/>新規採用看護師 156名</p> <p>平成20年3月30日・3月31日・4月2日；職員講習会（新規採用研修医対象）<br/>新規採用研修医に必要な感染対策の基本的知識・技術を習得する。<br/>研修医内定者 104名</p> <p>平成20年4月14日；職員講習会（放射線技師対象）<br/>放射線業務上の感染対策とN95マスクの取扱いについて<br/>放射線技師 20名</p> <p>平成20年6月3日；職員講習会（感染対策担当者対象）<br/>各診療科部門へ、感染管理の重要事項について周知徹底をはかる。<br/>各部門感染対策担当者（医師・看護師・技師・事務等） 70名</p> <p>平成20年7月30日・7月31日・8月1日；職員講習会（看護師対象）<br/>看護師レベルアップ講習会「感染管理」<br/>感染管理に必要な知識・技術を習得し、各部署において根拠に基づいた感染防止策を<br/>実践、指導するため<br/>看護師 30名</p> <p>平成20年7月19日—20日；職員講習会（医師対象）<br/>第6回 感染症の診断と治療セミナー<br/>感染症診断・治療・感染予防策・ケーススタディ<br/>医師（研修医・若手） 300名</p> <p>採用時随時実施；職員講習会（中途採用看護師対象）<br/>5月1日（4名）・7月1日（3名）・8月1日（4名）<br/>9月1日（4名）・11月4日（4名）・12月1日（1名）・1月5日（1名）<br/>新規採用看護師に必要な感染対策の基本的知識・技術を習得する。<br/>新規採用看護師 21名</p> |        |

平成20年6月11日（77名）・8月15日（22名）・9月26日（46名）；職員講習会（看護師対象）  
「輸液管理」  
輸液管理における感染管理を理解する。  
看護師 145名

平成20年10月6日；職員講習会（医師対象）  
感染性胃腸炎対策について理解する。  
救急部医師 10名

平成20年11月4日；職員講習会（医師対象）  
高度耐性菌対策について理解する。  
移植外科・免疫膠原病内科・糖尿病栄養内科医師 60名

平成20年11月18日；職員講習会（医師対象）  
高度耐性菌対策について理解する。  
呼吸器内科医師 30名

平成20年12月2日；職員講習会（全職員対象）  
「感染対策基本中の基本 藤田直久先生」  
正しい手指衛生について理解する。  
医師・看護師・技師・事務・外注業者等 270名

平成20年12月24日；職員講習会（看護師対象）  
「手術部における針刺し防止対策、手術時手洗いについて」  
手術時の針刺し防止および手術時手洗いについて理解する。  
手術部看護師 30名

平成20年12月25日；職員講習会（感染対策担当者対象）  
各診療科部門へ、感染管理の重要事項について周知徹底をはかる。  
各部門感染対策担当者（医師・看護師・技師・事務等）、外注業者 66名

平成21年1月21日；職員講習会（整形外科看護師対象）  
手術部位感染サーベイランスの結果をフィードバック  
整形外科看護師 20名

平成21年1月30日～2月13日；職員講習会（看護師対象）  
エキスパートコース「感染管理」  
感染管理における専門的な知識・技術を習得し自部署の質改善を行う。  
看護師 3名

平成21年2月4日・2月5日；職員講習会（看護補助者対象）  
感染管理の基本的な知識・技術を習得する。  
看護補助者 52名

平成21年3月9日；職員講習会（看護師対象）  
緑膿菌対策について理解する。  
看護師 20名

平成21年3月30日；職員講習会（NICU職員対象）  
MRSAサーベイランス結果のフィードバック  
医師・看護師 10名

④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況

- ・ 病院における発生状況の報告等の整備 ( 有・無 )  
その他の改善のための方策の主な内容：
  1. 感染対策サーベイランスの実施およびそれに基づいた感染対策の見直し  
耐性菌サーベイランス (MRSA、耐性緑膿菌、ESBL、VRE、他)  
カテーテル関連血流感染サーベイランス  
人工呼吸器関連肺炎サーベイランス  
感染性胃腸炎サーベイランス  
手術部位感染サーベイランス  
上気道・発熱サーベイランス
  2. 職業感染防止と曝露後対応
    - ・ 針刺しの原因分析と防止対策
    - ・ ワクチン接種と抗体の確認 (麻疹、水痘、B型肝炎ワクチン、インフルエンザ)
    - ・ 曝露後の対応 (血液体液曝露対策 (B型肝炎、C型肝炎、HIV)、結核、麻疹、水痘、インフルエンザ)
  3. 感染対策マニュアルの見直しおよび改訂作業
  4. 職員啓発活動
    - ・ 各種講演会、研修会の開催
    - ・ ICT ニュースの配布

医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

|                              |      |
|------------------------------|------|
| ① 医薬品の使用に係る安全な管理のための責任者の配置状況 | 有・無  |
| ② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況 | 年13回 |

研修の主な内容：

医薬品での事故防止に係る本院職員の意識改革と安全管理、及び薬剤師としての資質向上のため次の通り研修会等を開催した。

○全職種を対象  
(医薬品の安全使用のための研修会)

日 時：平成20年6月9日(月) 17:40～

- 『抗がん剤注射薬オーダーリングから払い出しに至るまでの流れと注意点について』  
講演者：薬剤部 寺田智祐 副薬剤部長
- 『薬剤オーダーのチェックシステムとその注意点について』  
講演者：薬剤部 深津祥央 薬品情報掛長
- 『高濃度カリウム製剤使用法について』  
講演者：安全管理部 長尾能雅 安全管理室長

参加数：309名(医師、薬剤師、看護師、事務、その他)

○薬剤師を対象  
(医薬品の安全使用のための説明会)

新規採用医薬品の説明会を毎月開催し、新規採用医薬品の説明および添付文書改定情報、安全性情報、医薬品の取り扱い等についての説明及び情報共有を図っている。

| 開催年月日          | 参加人数 |
|----------------|------|
| 平成20年4月3日 (木)  | 45名  |
| 平成20年5月7日 (水)  | 55名  |
| 平成20年6月4日 (水)  | 55名  |
| 平成20年7月2日 (水)  | 53名  |
| 平成20年8月4日 (月)  | 49名  |
| 平成20年9月2日 (火)  | 44名  |
| 平成20年10月1日 (水) | 51名  |
| 平成20年11月6日 (木) | 50名  |
| 平成20年12月3日 (水) | 47名  |
| 平成21年1月7日 (水)  | 50名  |
| 平成21年2月4日 (水)  | 51名  |
| 平成21年3月3日 (火)  | 50名  |

③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況

- ・ 手順書の作成 (  ・ 無 )  
業務の主な内容 :

1. 医薬品の採用
2. 医薬品の購入
3. 薬剤部における医薬品の管理
4. 病棟・各部門への医薬品の供給
5. 外来患者への医薬品使用
6. 病棟における医薬品の管理
7. 入院患者への医薬品使用
8. 医薬品の適正使用
9. 医薬品の安全使用に係る情報
10. 他施設 (医療機関・薬局等) との連携

以上の業務内容について、平成21年1月7日(水)に手順書に基づく業務の実施状況を調査した。各病棟における調査者は病棟担当者とし、薬剤部内の調査者は各担当掛長とした。調査結果および改善が必要な点については指導等の実施状況について書面で報告してもらい、記録として保存した。

④ 医薬品の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況

- ・ 医薬品に係る情報の収集の整備 (  ・ 無 )  
・ その他の改善のための方策の主な内容 :

- (1) 院内に新規採用された医薬品について、採用されてから6ヶ月後および1年後に医師に「新規採用医薬品副作用予備調査票」を送付・回収し、院内で発生した副作用情報を収集している。
- (2) 入院患者への薬剤管理指導を通して医薬品の安全使用のために必要な情報を収集している。そこで収集・解析した情報を、本院のチーム医療検討委員会が取りまとめているセミナーで、毎月薬剤管理指導検討会を公開し、院内各職種間を超えた情報の共有によって、医薬品安全使用の改善を図っている。
- (3) 医療安全管理室担当として副薬剤部長1名が兼任し、院内の情報を収集すると共に、医薬品関連のインシデントレポートをもとに薬剤部内で毎月1回検討会を実施、業務改善の方策を立てると共に、情報を共有することで医薬品安全使用の質的改善を推進している。
- (4) 京都府下の保険調剤薬局対象で原則年2回、京大病院薬剤部が医薬分業研修会を開催し、がん化学療法等の研鑽を積むとともに相互に問題となる情報を交換し、入院治療から外来治療に至るまで一貫した医薬品安全使用の向上を図っている。

- ・ 平成20年9月15日(月) 午後1時30分～午後5時 43名出席
- ・ 平成21年2月8日(日) 午後1時～午後4時 142名出席

- (5) 処方・注射オーダーリングシステムに対し、より精緻で強力な薬剤誤投与防止機能を付加し、医療事故を未然に防止すると共に、必要となるデータベースを構築し、維持・管理している。
- (6) 病院内において、アラートメールを通じた医薬品安全性情報、緊急安全性情報の等の配布、緊急通告や医薬品の採用・削除などの医薬品情報を配信している。
- (7) 医師との連携により、外来の院外処方せん交付患者に対しても、初回投与時の抗がん剤(タルセバ)の服薬指導を開始し、副作用等の説明及びその対処を指導する事で医薬品安全使用を推進することが可能となった。

医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

|  |      |
|--|------|
| ① 医療機器の安全使用のための責任者の配置状況  | ☑・無  |
| ② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況  | 年35回 |
| <p>研修の主な内容：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>*平成20年4月に新人看護師及び研修医を対象とした輸液・シリンジポンプの使用方法について研修を実施</li> <li>*平成20年度中に計29回、医師・看護師・臨床工学技師を対象として人工呼吸器・人工透析装置・人工心肺装置等の使用方法、安全対策についての研修を実施</li> <li>*平成20年5月・7月・11月に診療放射線発生装置等に対する医療機器安全使用のための研修を実施</li> <li>*平成20年6月・11月に診療用高エネルギー放射線発生装置に対する医療機器安全使用のための研修を実施</li> </ul>  |      |
| ③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況  |      |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 計画の策定 (☑・無)</li> <li>保守点検の主な内容：</li> <li>*各機器の点検周期に添って臨床工学技師による点検とメーカーによる点検を実施している。 <ul style="list-style-type: none"> <li>→臨床工学技師の点検では、バッテリー・各種センサー・各種フィルター等の定期交換を実施している。</li> <li>→メーカーによる修理の講習を受けた機器については簡易修理を行っている。</li> <li>→高度な技術を要する修理はメーカーに依頼している。</li> </ul> </li> <li>*放射線機器については点検実施計画を作成し、各分担当者を決め定期的に点検を実施している。</li> </ul> |      |
| ④ 医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況  |      |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 医療機器に係る情報の収集の整備 (☑・無)</li> <li>・ その他の改善のための方策の主な内容：</li> <li>*医療機器に関する安全性情報は医療安全管理室と協力して医療従事者に周知する体制をとっている。</li> <li>*安全管理の一環として病棟で使用する医療機器の機種統一を進めている。</li> <li>*医療機器関連のインシデント・アクシデン報告の検討とマニュアルの整備をしている。</li> <li>*メーカーの安全情報や学会等のガイドラインに添ったマニュアルの整備をしている。</li> <li>*厚生労働省からの安全管理等通知に則した点検・運用の遵守。</li> </ul>                            |      |